資料１

令和８年度第１回熊本県環境影響評価審査会第一部会　次第

日　時：令和８年（２０２６年）５月２９日（金）９時３０分～
場　所：熊本県庁　行政棟本館５階　審議会室

１　開　会

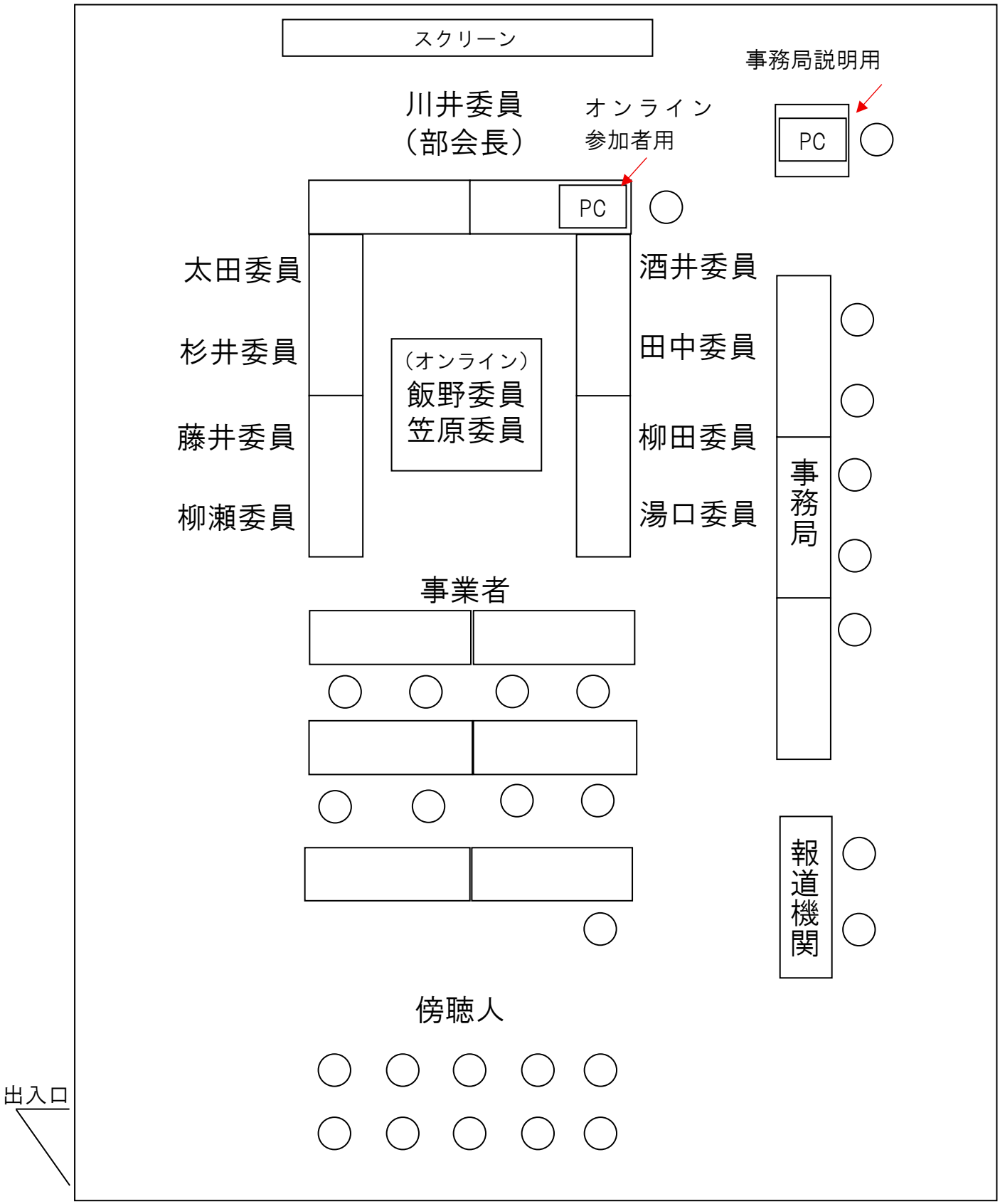
２　議　題
「（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業 環境影響評価準備書」について

３　その他

４　閉　会

【配付資料】
（１）資料１　令和８年度第１回熊本県環境影響評価審査会第一部会　次第　等
（２）資料２　（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業 環境影響評価準備書の手続きについて
（３）資料３　「（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業 環境影響評価準備書」に係る意見について（照会）※委員限り
（４）（仮称）伊佐・えびの・人吉風力事業 環境影響評価準備書　説明資料（公開版）
（５）（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業 環境影響評価準備書　説明資料（非公開版）　※委員限り

席　次　表


スクリーン
事務局説明用
川井委員
（部会長）
オンライン
参加者用
PC
PC
太田委員
杉井委員
藤井委員
柳瀬委員
酒井委員
田中委員
柳田委員
湯口委員
（オンライン）
飯野委員
笠原委員
事務局
事業者
報道機関
傍聴人
出入口

令和８年度第１回熊本県環境影響評価審査会第一部会 出席者名簿

（敬称略）

日　時：令和８年５月２９日（金）９時３０分～
場　所：熊本県庁　行政棟本館５階　審議会室

１　熊本県環境影響評価審査会第一部会委員（出席：１１名）

	氏　　名	分　　野	所属・職名等	出欠
1	飯野　直子	大気質、悪臭、温室効果ｶﾞｽ等	鹿児島国際大学福祉社会学部 教授	○ オンライン
2	太田　リカ	景観	空間デザイナー、 グラフィックデザイナー	○
3	笠原　玉青	水質、水象等	九州大学大学院農学研究院 教授	○ オンライン
4	川井　敬二	騒音、振動、低周波空気振動等	熊本大学大学院先端科学研究部 教授	○
5	清野　聡子	生態系、水生生物等	九州大学大学院工学研究院　准教授	―
6	酒井　佳美	土壌等	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所 産学官民連携推進調整監	○
7	田中　忠	陸上動物(鳥類)	日本野鳥の会熊本県支部　支部長	○
8	杉井　健	文化財等	熊本大学文学部　教授	○
9	藤井　紀行	生態系、陸上植物等	熊本大学大学院先端科学研究部 准教授	○
10	湯口　貴史	地下水、地形・地質等	熊本大学大学院先端科学研究部　教授	○
11	村田　浩平	生態系、陸上動物等	東海大学農学部　教授	―
12	柳田 紀代子	触れあい活動の場等	EDIT Place Lab　代表 （元尚絅大学現代文化学部　教授）	○
13	柳瀬　龍二	廃棄物等	元福岡大学環境保全センター　教授	○

○：出席　－：欠席

資料２

「（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業 環境影響評価準備書」の手続について

令和８年５月　環境保全課

環境影響評価とは

（1） 事業者が自ら主体となって行う手続

よりよい環境配慮を行うように、事業者による情報交流の手続を法や条例で定めている。

（2） 事業実施の有無を決める制度ではない

許可や審査の基準ではなく、対象事業や手続等について定めている。

※ 事業の実施の可否は、許認可権者等により判断される。

（3） 地域住民とのコミュニケーションツールの一つ

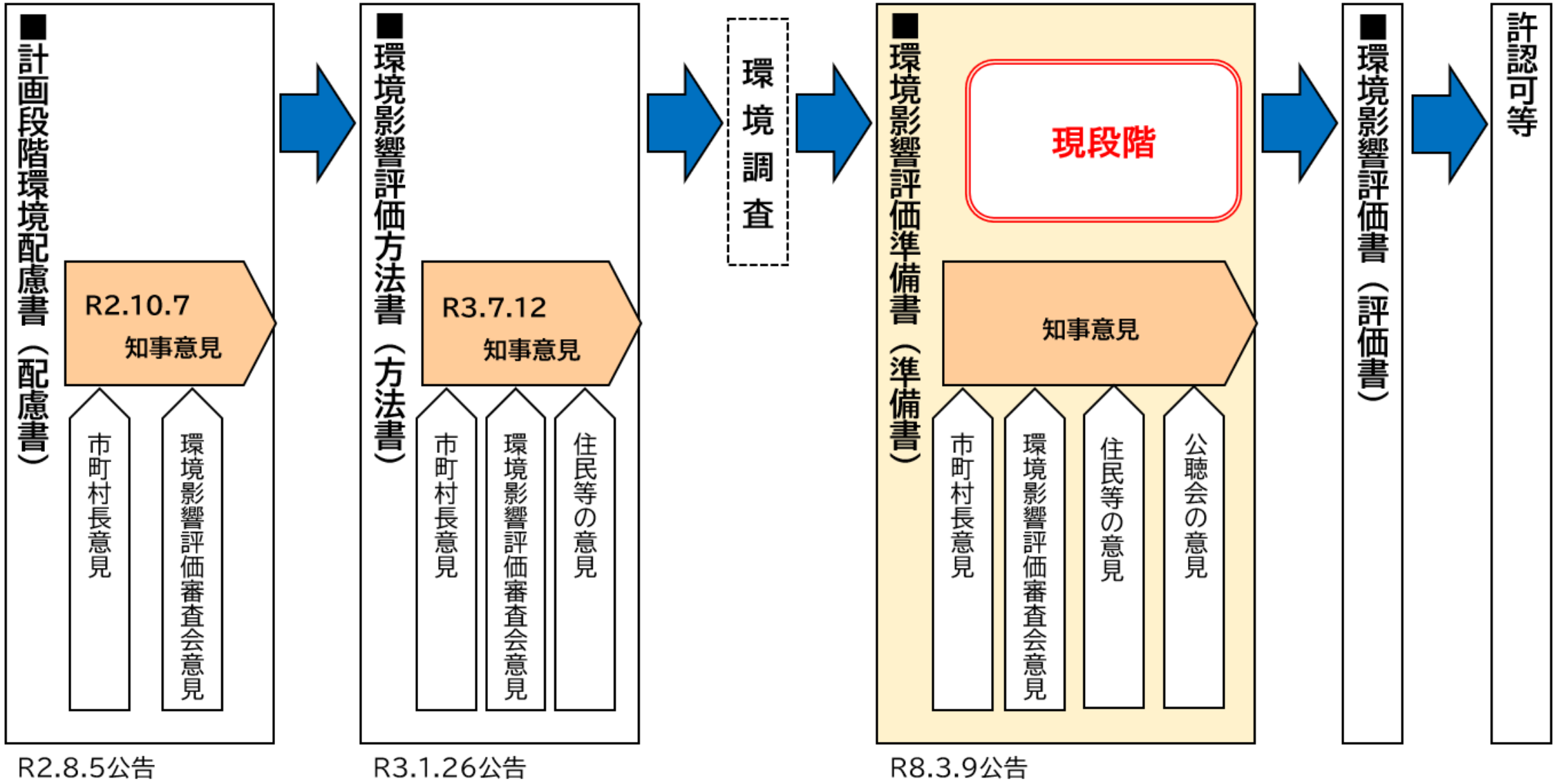
図書の縦覧及び説明会の開催等、事業者が自ら結果を公表し、地域住民、地方公共団体、専門家の意見を聴いて、よりよい環境配慮を行う。

今回の対象事業について

対象事業等

事業者	株式会社グリーンパワーインベストメント
事業名	（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業
事業の種類	風力発電所（環境影響評価法対象事業）
事業の規模	最大117,600kW
対象事業実施区域	熊本県人吉市、鹿児島県伊佐市及び宮崎県えびの市
関係地域	熊本県人吉市 等

環境影響評価手続きの流れ



環境影響評価手続の各手続

１　配慮書
計画の立案段階で環境保全のために配慮すべき事項を検討する段階

２　方法書
環境アセスメントの方法（調査内容や予測、評価の方法）を決める段階

３　準備書
方法書に基づき行った調査、予測、評価の結果を取りまとめる段階

４　評価書
準備書に対して出された住民等や知事の意見を踏まえて修正等を行い、最終的な図書としてまとめる段階

準備書手続きについて

準備書：方法書に基づき行った調査、予測、評価の結果を取りまとめる

主な記載事項

- 環境影響評価項目ごとの調査の結果
- 調査結果を受けての環境影響の予測及び評価の結果
- 予測及び評価の結果を受けての環境保全のための措置
- 方法書に対する県知事意見等とそれに対する事業者の見解

アセス手続きにおける知事意見

【準備書段階】

意見の機会

環境影響評価法

配慮書（第3条の7）

方法書（第10条）

準備書（第20条）

それぞれの図書に対して
知事が環境保全の見地から
意見を述べることを規定

※　評価書は環境アセスメントの最終的な図書であり、知事意見の規定はない。
　　ただし、経済産業大臣は評価書の内容について変更を命ずることができる。

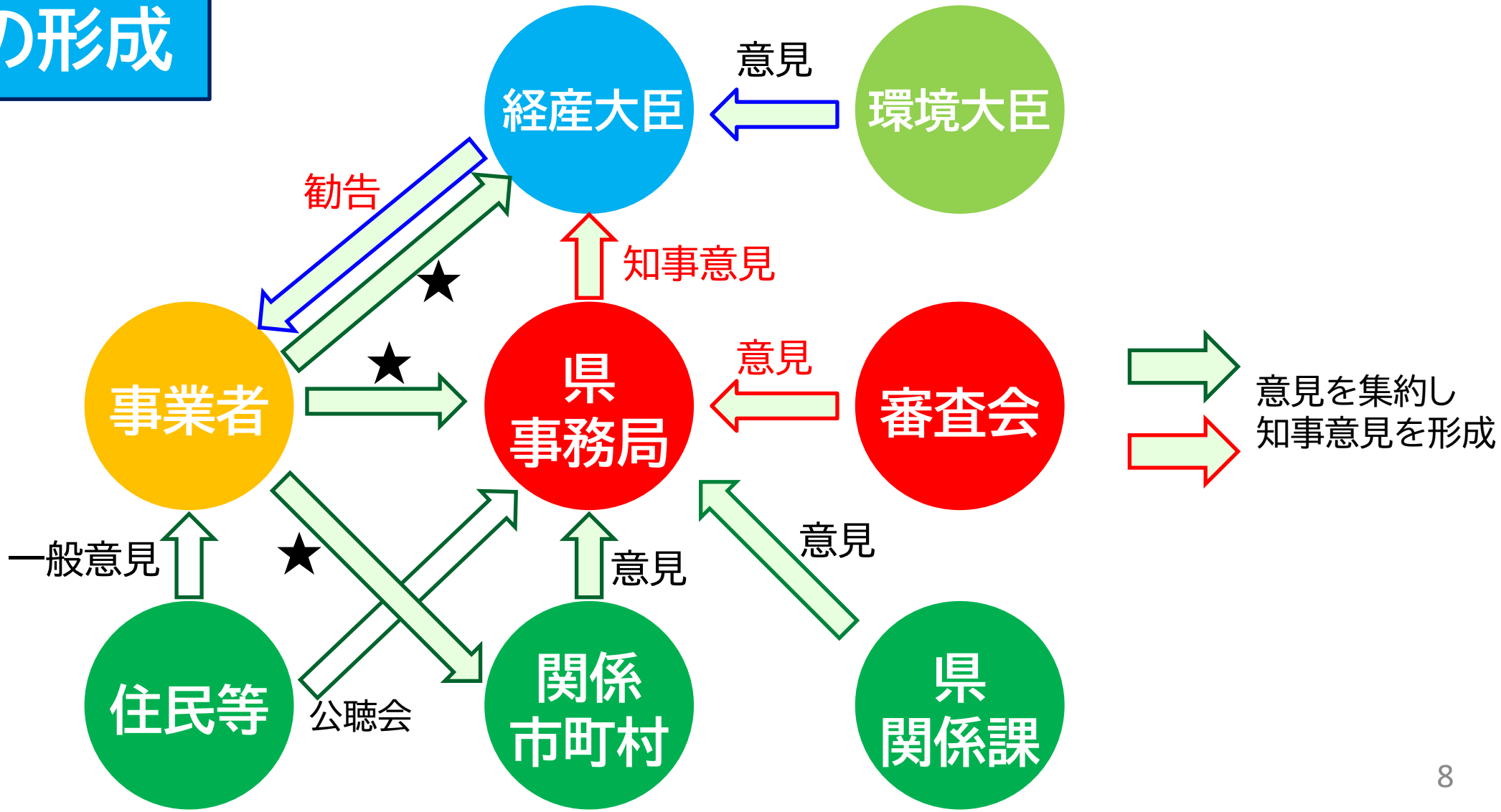
※　準備書は知事から経済産業大臣へ意見を述べる最後の機会となる。

アセス手続きにおける知事意見

【準備書段階】

★：一般意見の概要及び事業者の見解

意見の形成

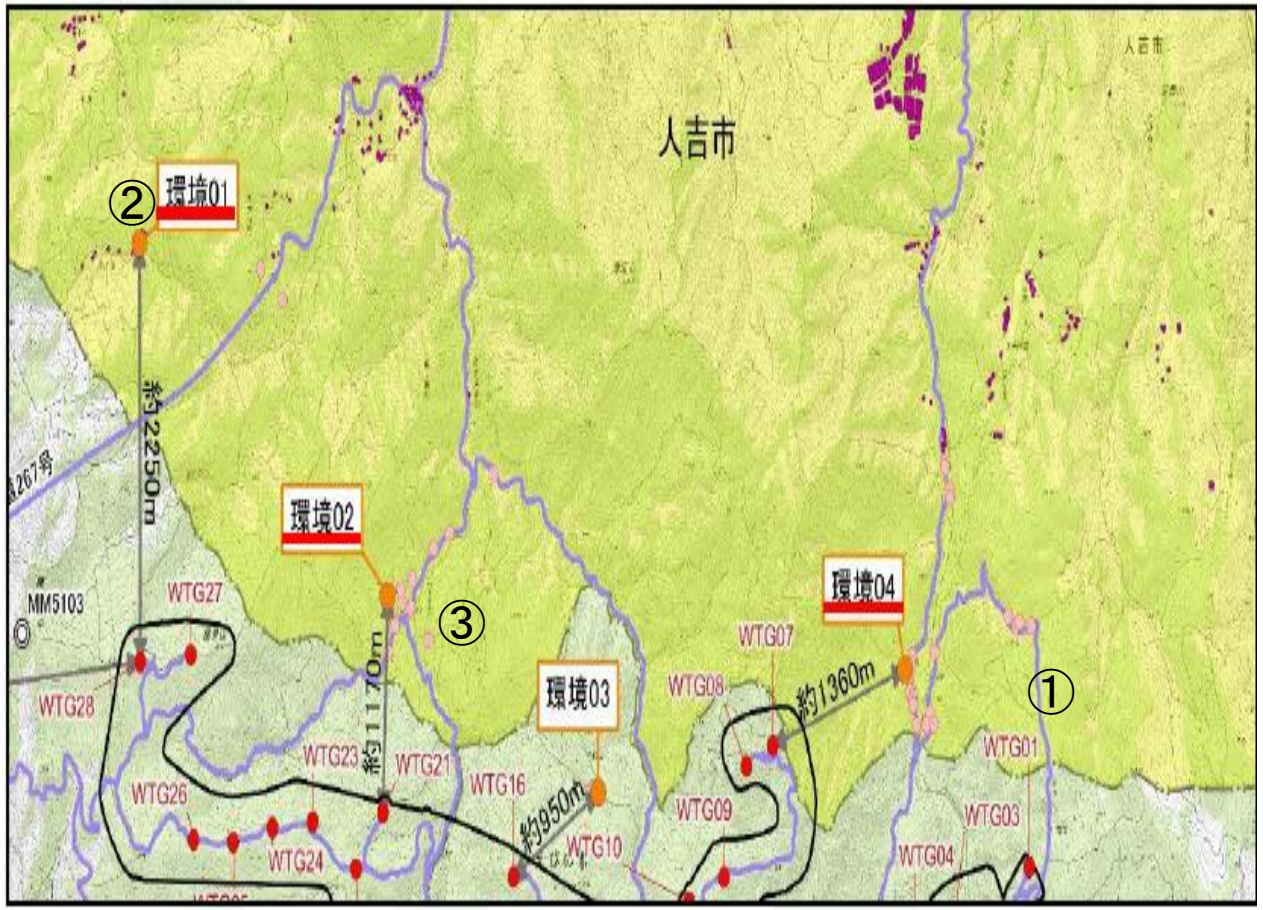


現地写真 ～矢岳駅・田野町・東大塚町～

①矢岳駅周辺



R8.5撮影



準備書掲載の図を一部改変

②田野町(美晴山)



③東大塚町周辺



公開版

(仮称)伊佐・えびの・人吉風力発電事業
環境影響評価準備書
－概要説明資料－

株式会社グリーンパワーインベストメント

2026.5.29



※　本資料の無断転載・複製はお控えください。

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

目次

01 対象事業の内容

02 環境影響評価の方法及び結果、環境保全措置

03 事後調査計画

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

01

対象事業の内容



（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業の概要

（仮称）伊佐・えびの・人吉風力発電事業（以下、本事業）は、良好な風況が得られる鹿児島県伊佐市、宮崎県えびの市、熊本県人吉市おいて風力発電施設を設置し、風力エネルギーによる環境負荷の少ない電気を発電し、送電網を介して電力供給する事業です。

対象事業実施区域（計画検討区域）	鹿児島県伊佐市、宮崎県えびの市、熊本県人吉市
発電所の出力	117,600キロワット程度 （4,200キロワット級の風車を28基程度を想定）
予想発電量	約5.6万世帯の年間消費電力に相当
事業期間	２０年間（経済産業省の再生可能エネルギーの固定価格買取制度における調達期間）

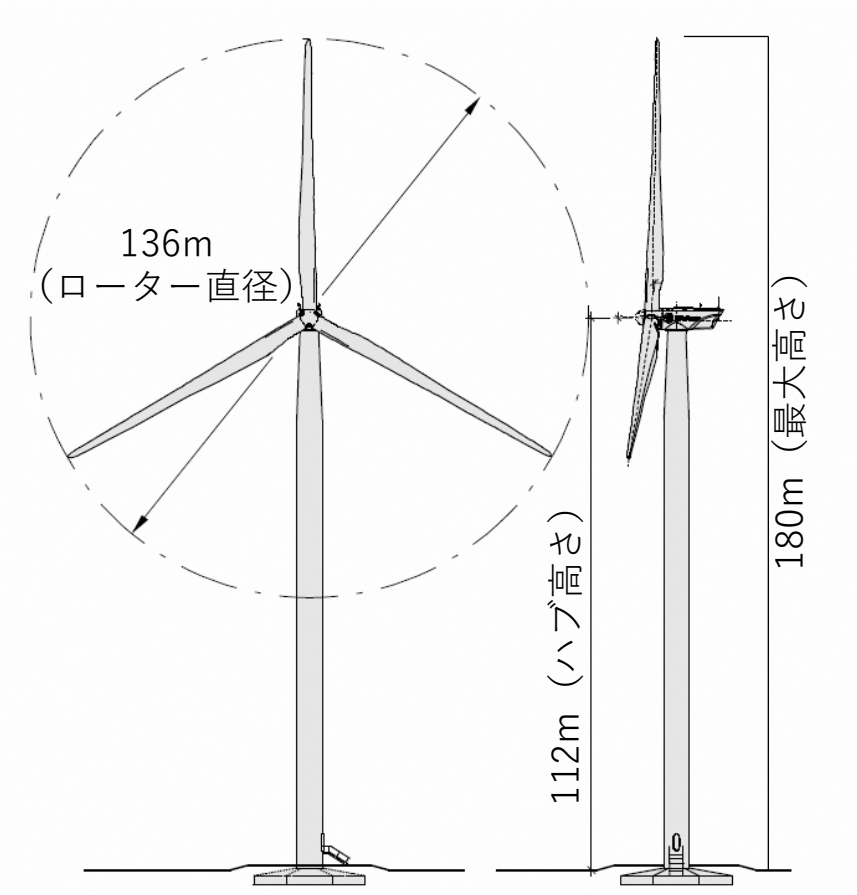
準備書p.2-2(4)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

風力発電機の仕様

導入を検討している風力発電機の仕様は以下の通りです。

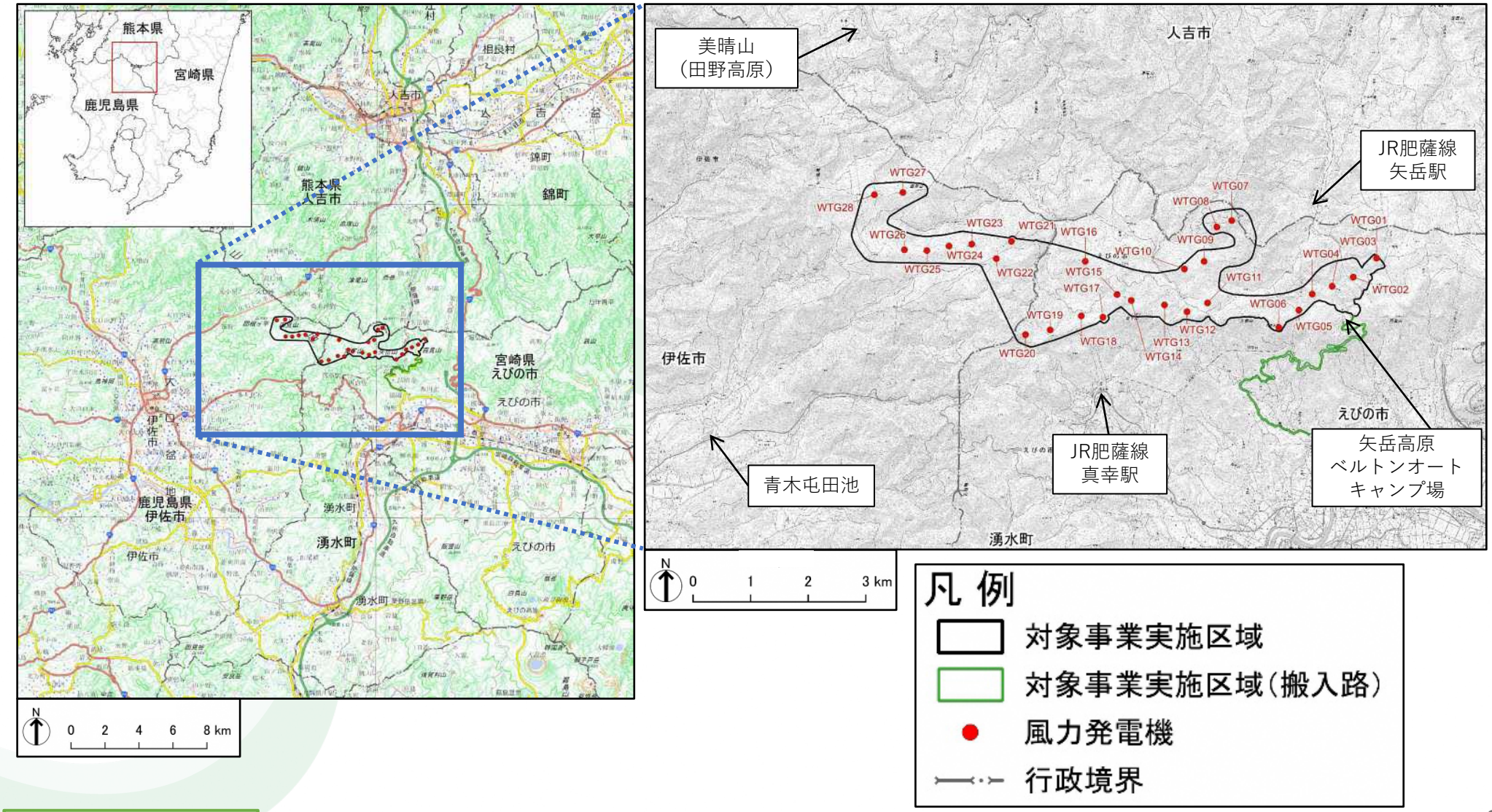
項目	諸元
定格出力	4,200キロワット級
最大高さ （地上から羽根までの高さ）	180m
ローター直径 （羽根の回転直径）	136m
ハブ高さ （地上から風車の中心の高さ）	112m



準備書p.2-68(70)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

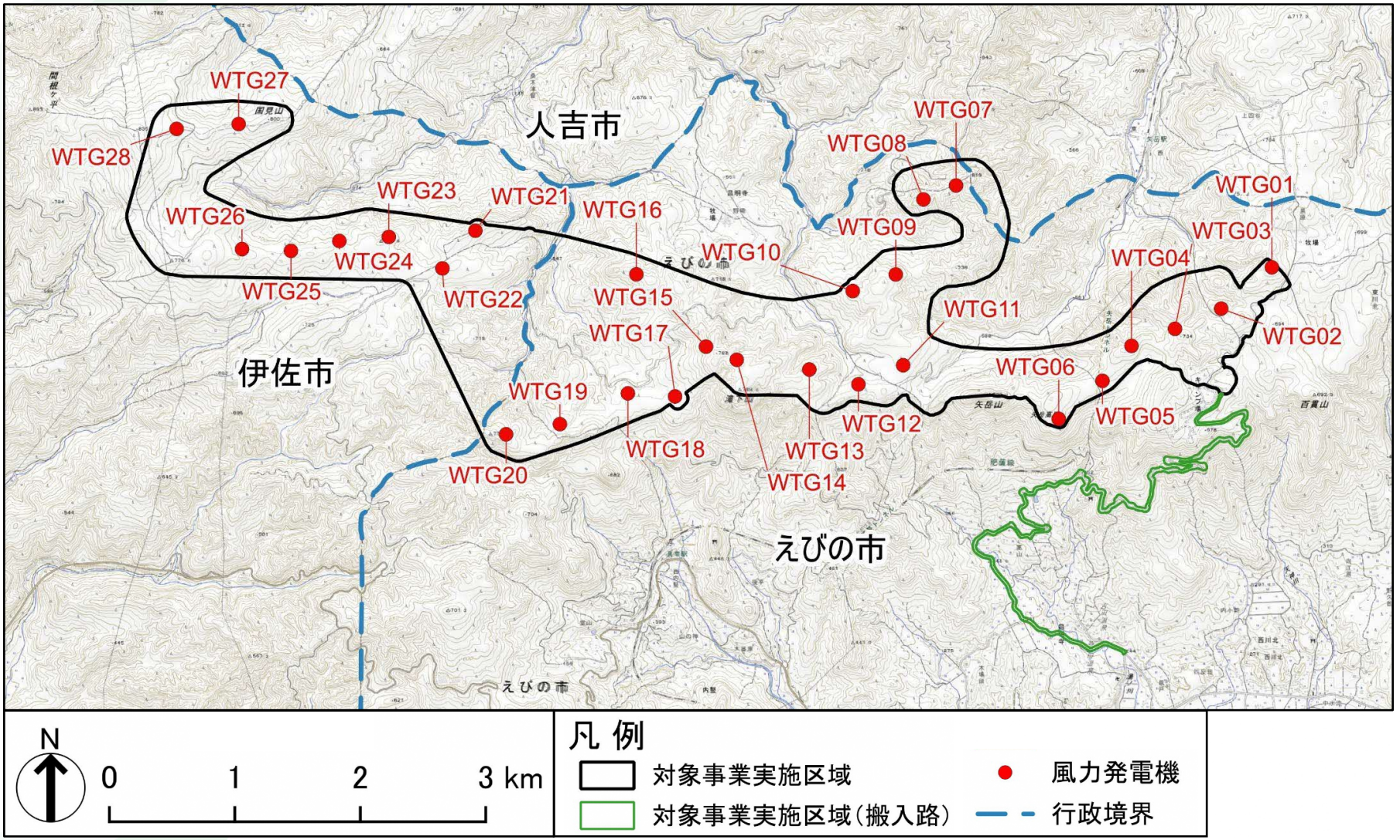
対象事業実施区域（広域図）



準備書p.2-3(5)、5(7)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

対象事業実施区域（拡大図①）



Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

対象事業実施区域（拡大図②）

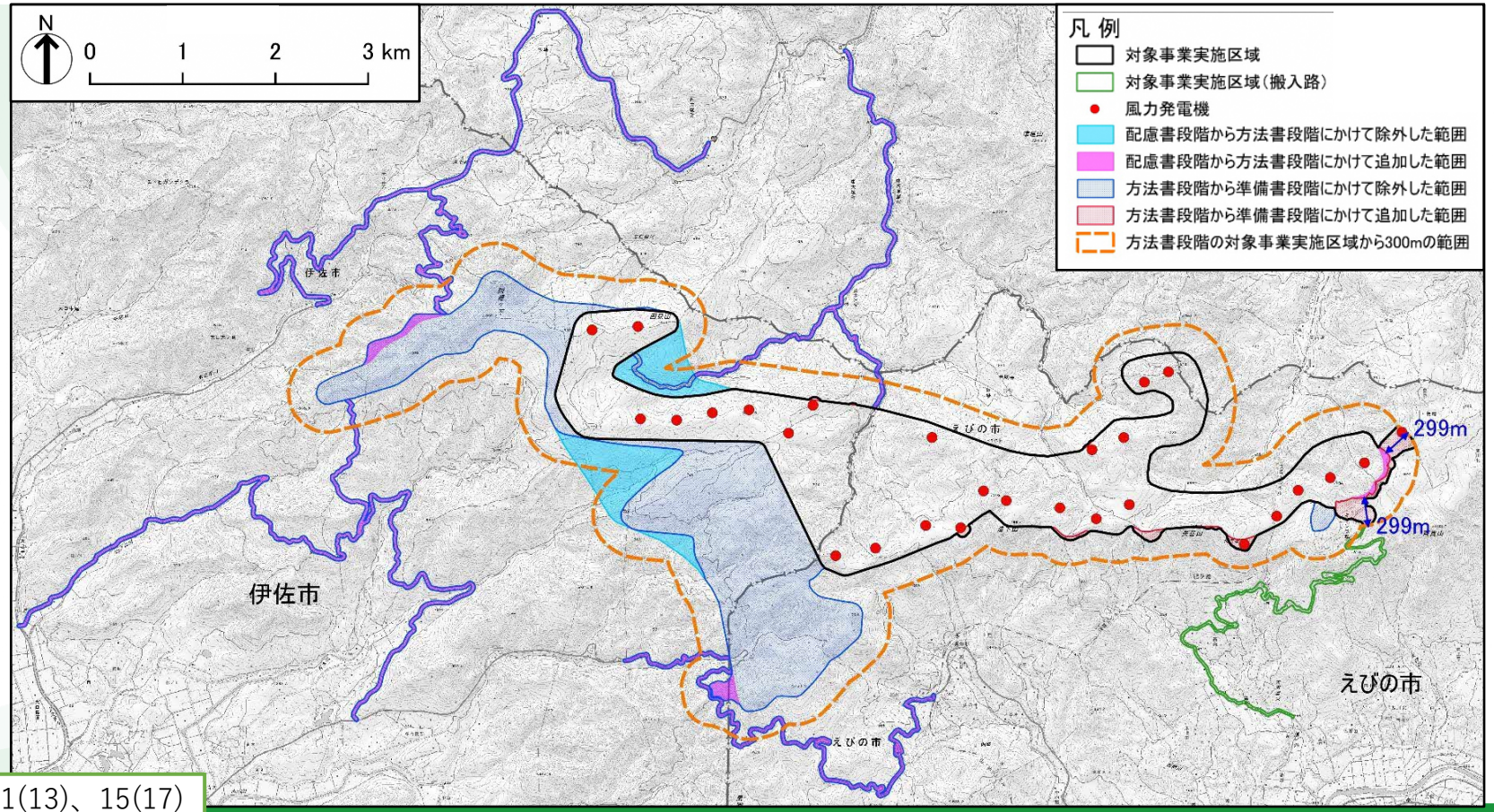


Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

対象事業実施区域の設定経緯

方法書届出以降は、関係機関や地元自治体等との協議を踏まえて事業計画の熟度を高めた結果、鹿児島県側の対象事業実施区域の一部等を除外しました。

また、事業計画の熟度を高めた結果、宮崎県側の対象事業実施区域の一部等を追加しました。なお、追加した範囲は方法書段階の対象事業実施区域内から300mの範囲内であり、追加範囲を含め必要な各種調査を実施しました。予測及び評価の結果、水質や生態系(クマタカ)等の各項目において、当該範囲の追加による重大な環境影響の増加は無いこと確認しております。



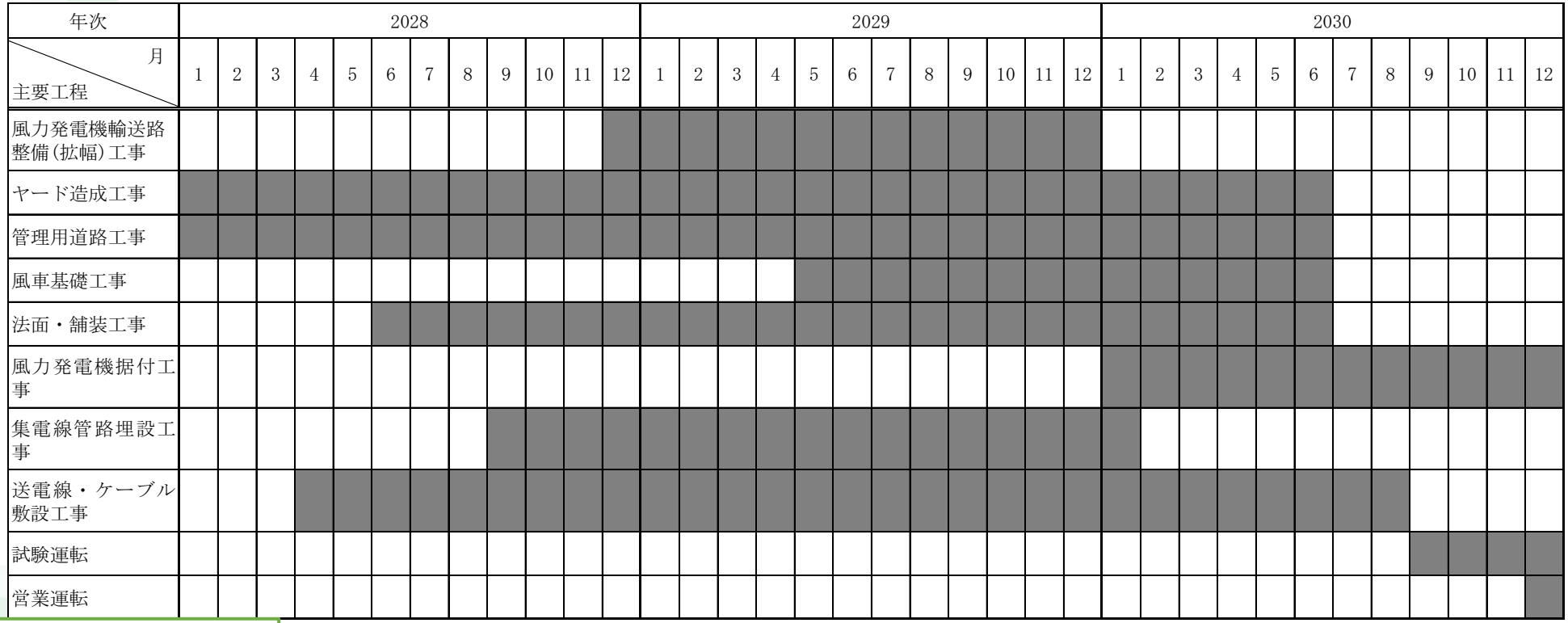
準備書p.2-11(13)、15(17)

工事計画（概要）

●工事内容

・土木基礎工事：機材搬入路及びアクセス道路整備、ヤード造成、基礎工事等
・風力発電機据付工事：風力発電機据付工事（輸送含む）
・電気・計装工事：送電線工事、所内配電線工事、変電所工事、建屋・電気工事、計装工事等

●工事工程



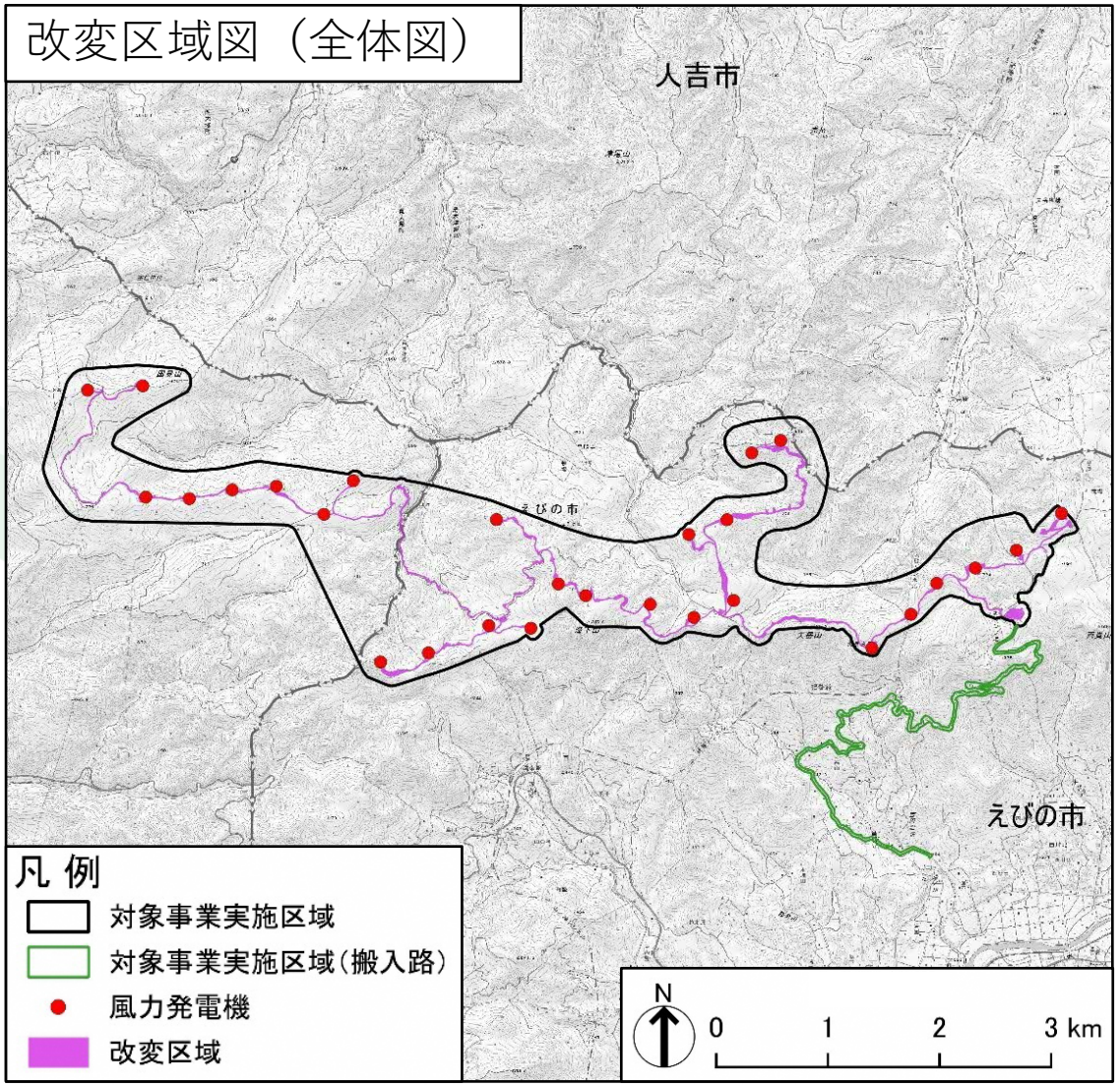
準備書p.2-16(18)～17(19)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

土地の造成計画

●改変区域

種別		改変面積	緑化面積
総面積		**約61.4ha**	**約38.8ha**
	対象事業実施区域内	約54.2ha	約31.6ha
	ヤード	約7.5ha	0.0ha
	構内変電所	約0.3ha	0.0ha
	管理用道路（工事用道路）	約13.0ha	0.0ha
	切土法面	約4.6ha	約4.6ha
	盛土法面	約11.5ha	約11.5ha
	その他	約17.3ha	約15.5ha
	対象事業実施区域（搬入路）内	約7.2ha	約7.2ha
	切土法面	約0.3ha	約0.3ha
	盛土法面	約1.5ha	約1.5ha
	その他	約5.4ha	約5.4ha



準備書p.2-16(18)、19(21)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

風力発電所の造成計画と防災対策について

- 立木の伐採等土地の改変に関係する工事においては可能な限り雨期を避けます。また工事による一時的な裸地については、緑化対策を実施します。また発電所の完工後も緑化対策を継続実施します。
- 弊社風力発電所の建設工事にあたっては、全ての排水方向に防災施設（沈砂池、土砂流出防止柵）を設置し、構内に降った雨水を「分散排水」します。
- 各排水方向に設置する防災施設は、排水方向毎に集水する面積に応じ、必要な大きさの沈砂池又は土砂流出防止柵を設置します。
- 防災施設に溜まった土砂は、原則、年に3回浚渫（しゅんせつ）を行い、その機能を維持します。
- 弊社の事業に起因する土砂流出については責任をもって対処します。

【防災施設設計の考え方】

年間に発生する可能性がある土量 ＜ 発生可能性土量を貯砂可能な防災施設を設計

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

土砂災害対策工事の実施例

建設工事では主に以下の災害対策工事を講じます。

土砂流出防止柵	• 網目状のネットの柵を設置することにより、土砂流出を防止します。盛土面に対して設置します。
フトンカゴ	• 鉄線でかごを作り、その中に砕石を詰め込んだものです。 • 一定の高低差があり法面崩壊・土砂流出が特に懸念される箇所に対して設置します。
法面緑化	• 造成工事により裸地になった道路法面を、種子吹付などにより緑化する事により、土砂流出を防止します。
沈砂池（ちんさち）	• 降雨における濁水を一時的に溜め、上澄み水を排出する施設です。降雨時における濁水の発生を抑制します。
排水施設	• 暗渠（あんきょ）排水、集水ます、道路側溝等の排水施設です。水の流れを調整します。

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

主な災害対策工事の実施例

土砂流出
防止柵



フトンカゴ



法面緑化

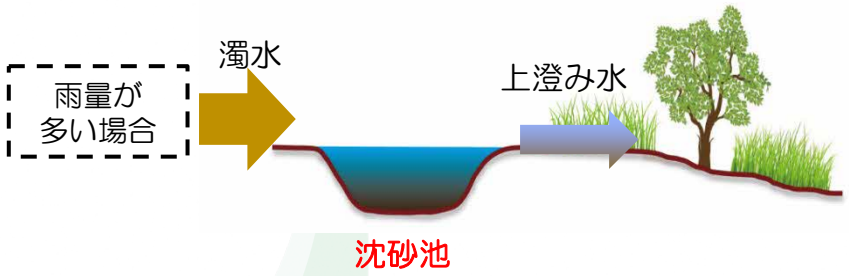


Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

主な災害対策工事の実施例

沈砂池





上澄み水を森林土壌へ排出します。森林土壌の浸透能力を活用することで、さらに濁水の流出を抑えます。

排水施設
（暗渠（あんきょ）排水）

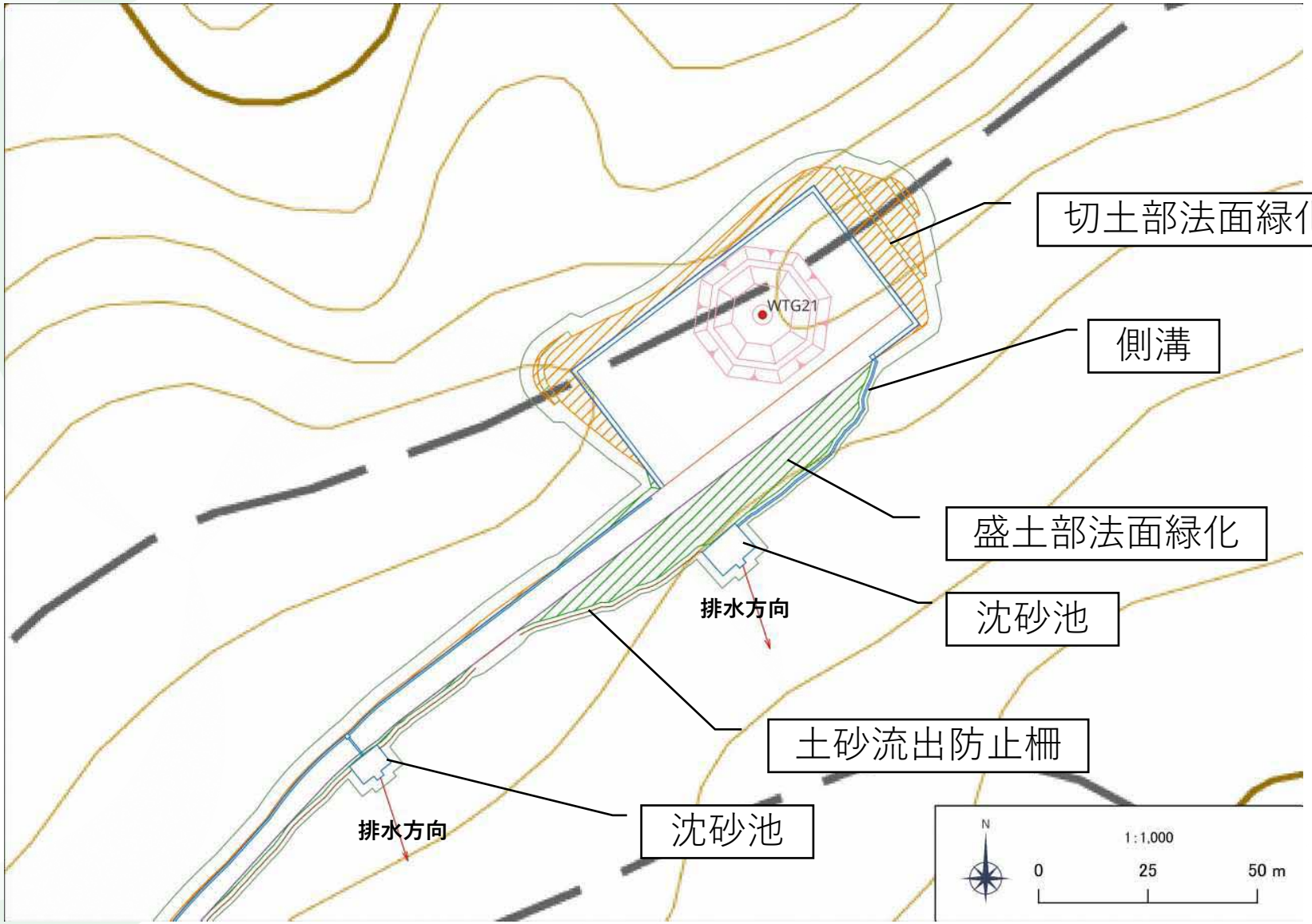


排水施設
（集水ます）



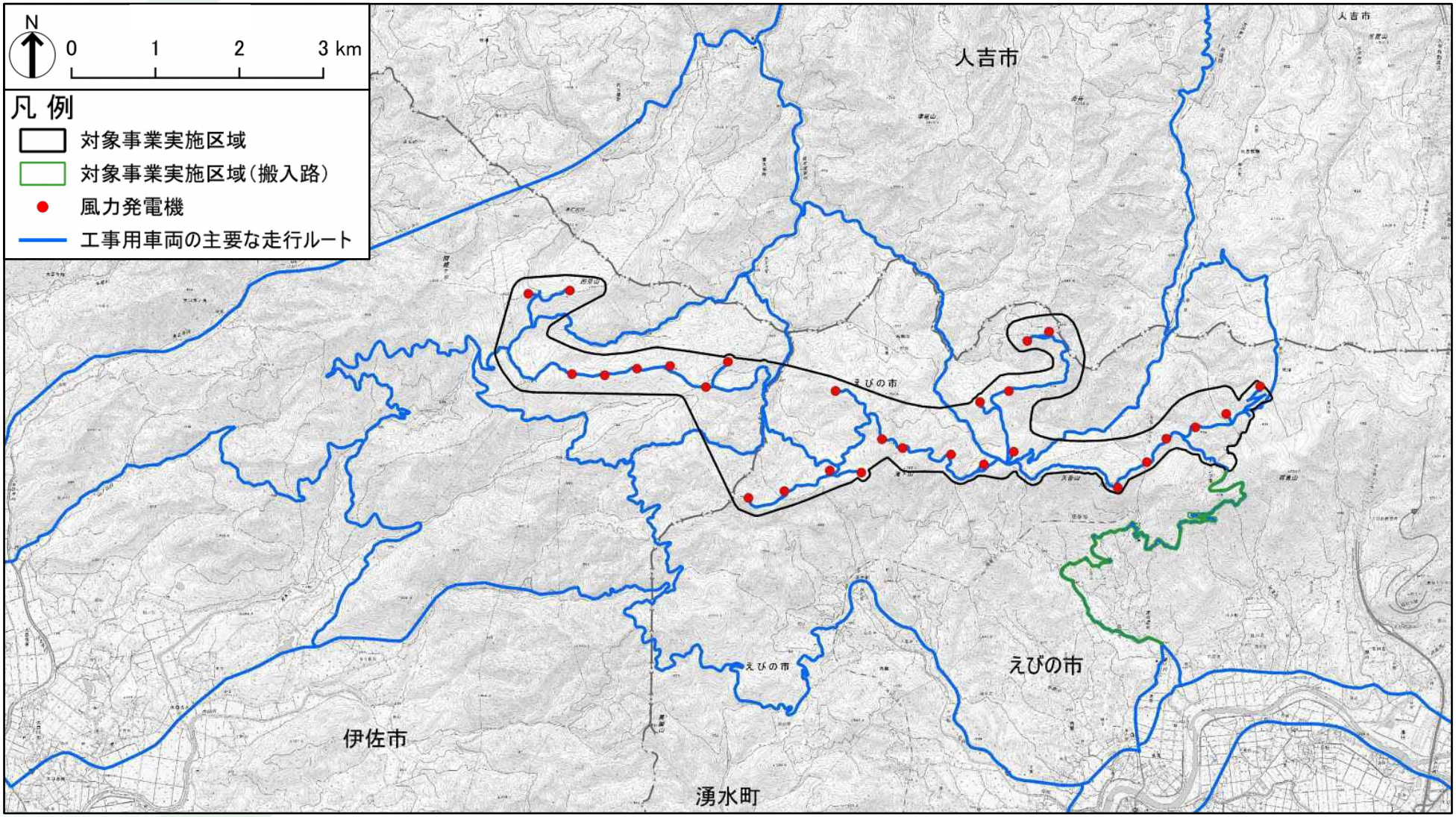
Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

参考：排水計画の検討について（21号機の場合）



Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

工事用車両の主要な走行ルート



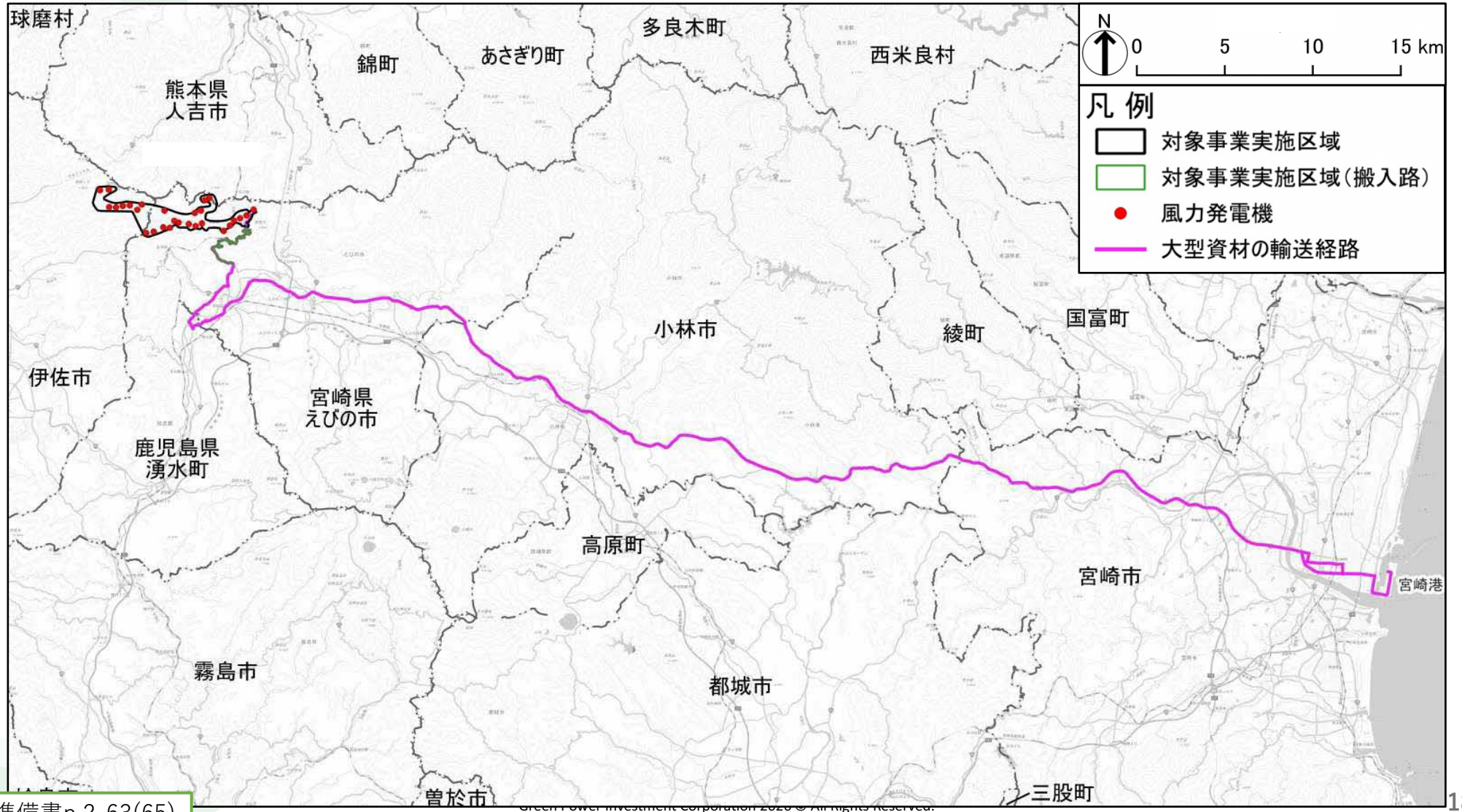
※現在のルート案は想定される最大の利用を示したものであり、今後の事業計画の検討に伴い精査していく予定である。
※工事用車両とは、ダンプトラックやコンクリートミキサー車等であり、大型資材の輸送車は含まない。

準備書p.2-62(64)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

大型資機材の輸送経路

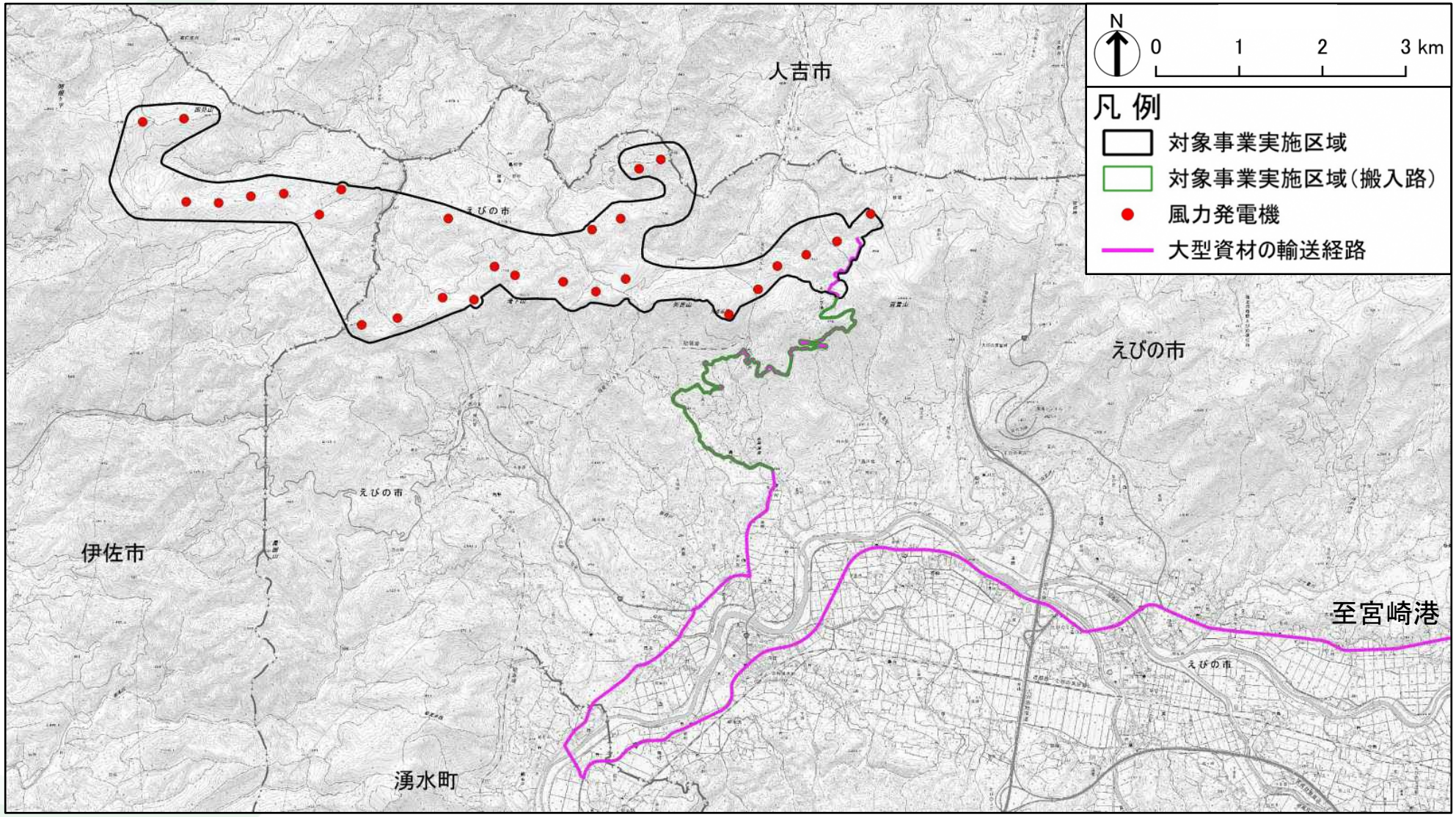
風力発電機の部材等の大型資材の輸送経路は、宮崎県道408号等を使用する予定です。



準備書p.2-63(65)

Green Power Investment Corporation 2026 © All rights reserved.

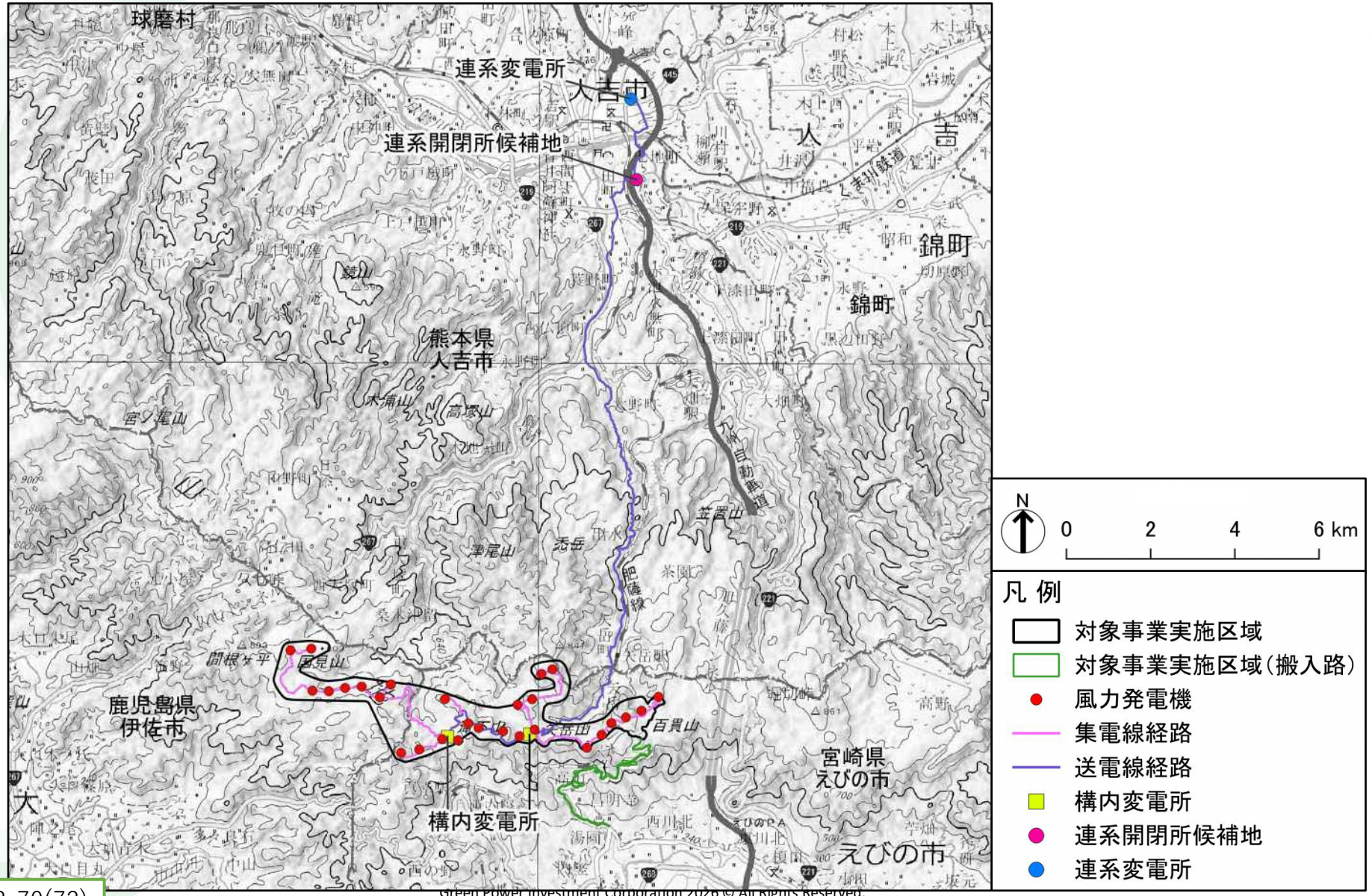
大型資機材の輸送経路（拡大）



準備書p.2-63(65)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

連系変電所、構内変電所、送電線等

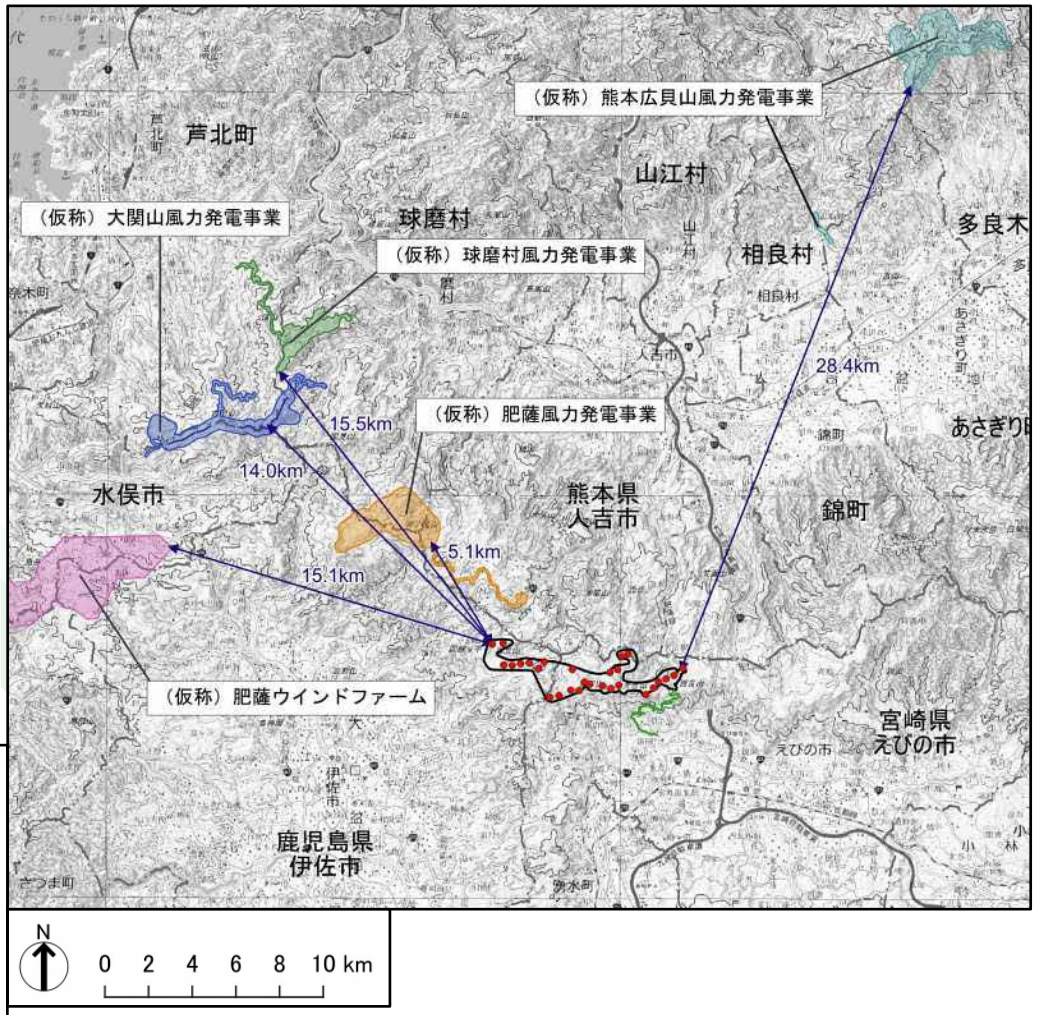


準備書p.2-70(72)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

周辺の他事業の状況

事業名	事業者名	発電所出力（基数）	手続段階	最短距離
（仮称）球磨村風力発電事業	株式会社エルゴジャパンエナジー	最大55,900kW（最大13基）	準備書令和7年7月	15.5km
（仮称）熊本広貝山風力発電事業	MULエナジーインベストメント株式会社	最大36,000kW（最大15基）	配慮書令和2年4月	28.4km
（仮称）肥薩ウィンドファーム	電源開発株式会社	最大129,000kW（30基）	準備書令和5年5月	15.1km
（仮称）肥薩風力発電事業	ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社	最大68,800kW（16基）	準備書令和5年4月	5.1km
（仮称）大関山風力発電事業	ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社	最大63,000kW（最大15基）	方法書令和2年12月	14.0km



凡 例
- 対象事業実施区域
- 対象事業実施区域（搬入路）
- 風力発電機
- （仮称）球磨村風力発電事業
- （仮称）熊本広貝山風力発電事業
- （仮称）肥薩ウインドファーム
- （仮称）肥薩風力発電事業
- （仮称）大関山風力発電事業
- （仮称）大関山風力発電事業（風力発電機の設置予定範囲）
- 周辺他事業との最短線

準備書p.2-74(76)～75(77)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

02

環境影響評価の方法及び結果、環境保全措置



環境影響評価項目①

本事業に係る環境影響評価の項目について、本事業の内容は一般的な事業の内容と同様であることから、発電所アセス省令の別表第6に示される風力発電所に係る参考項目を基本とし、これに地域特性を踏まえて選定しました。

環境要素の区分 ＼ 影響要因の区分			工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
			工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	施設の稼働
大気環境	騒音及び超低周波音	騒音	○	○			○
		超低周波音					○
	振　動		○				
水環境	水　質	水の濁り		（非選定）	○		
その他の環境	その他の環境	地形及び地質				（非選定）	
		風車の影					○

「発電所アセス省令」別表第6における風力発電所に係る参考項目を示します。

○　環境影響評価項目として、選定した項目を示します。

河川内のしゅんせつは行いませんので、建設機械の稼働による水の濁りは発生しません

重要な地形・地質が確認されていません

省令の参考項目ではありませんが、対象事業実施区域の周囲に住居等が存在することから選定しました

準備書p.8-6(436)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

環境影響評価項目②

環境要素の区分 ＼ 影響要因の区分		工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
		工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	施設の稼働
動　物	重要な種及び注目すべき生息地			○	○	
植　物	重要な種及び重要な群落			○	○	
生態系	地域を特徴づける生態系			○	○	
景　観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				○	
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○			○	○
廃棄物等	産業廃棄物			○		
	残　土			○		

「発電所アセス省令」別表第6における風力発電所に係る参考項目を示します。

○　環境影響評価項目として、選定した項目を示します。

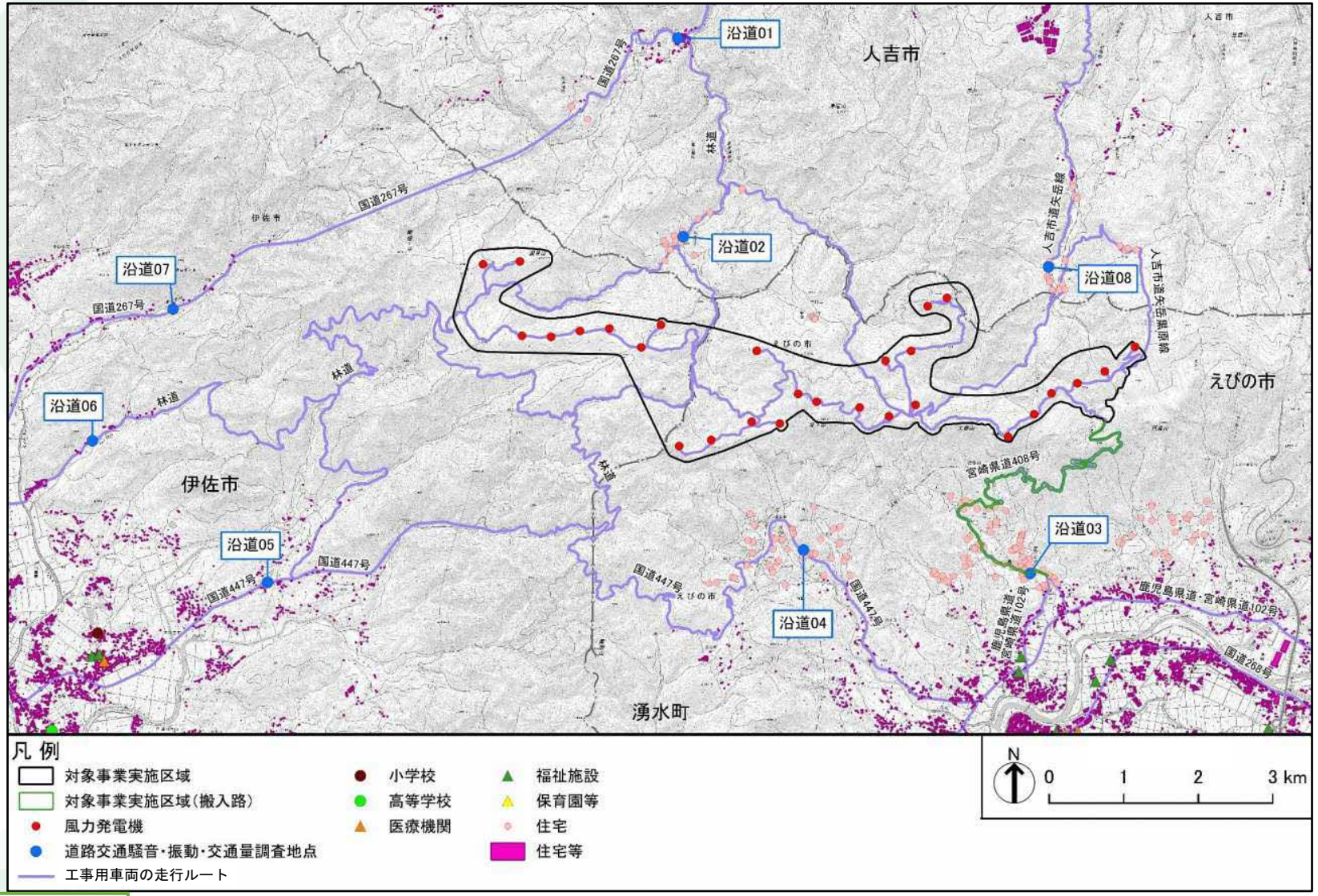
省令の参考項目ではありませんが、矢岳高原ベルトンオートキャンプ場への環境騒音についても調査・予測を実施しました

準備書p.8-6(436)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ①工事関係車両による道路交通騒音

(1)調査地点図

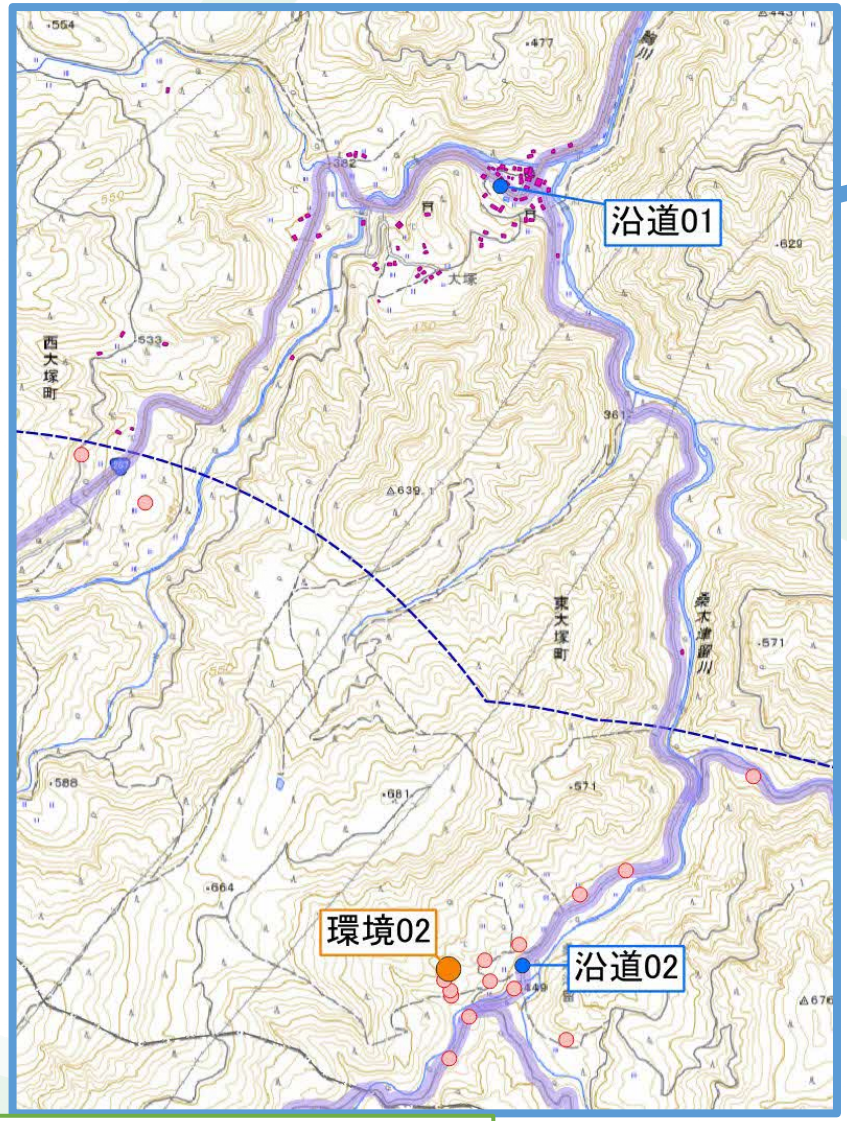


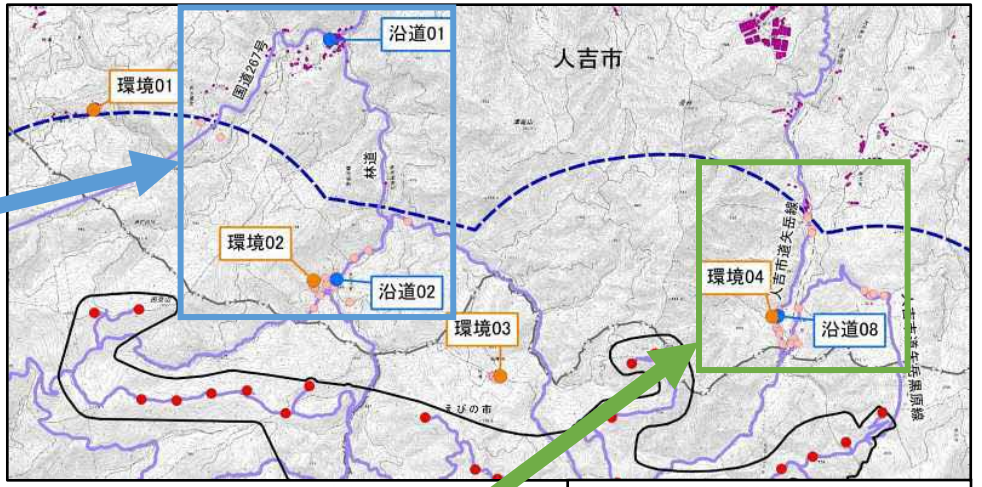
準備書p.10.1.1-2(532)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　①工事関係車両による道路交通騒音

(1)調査地点図（拡大）





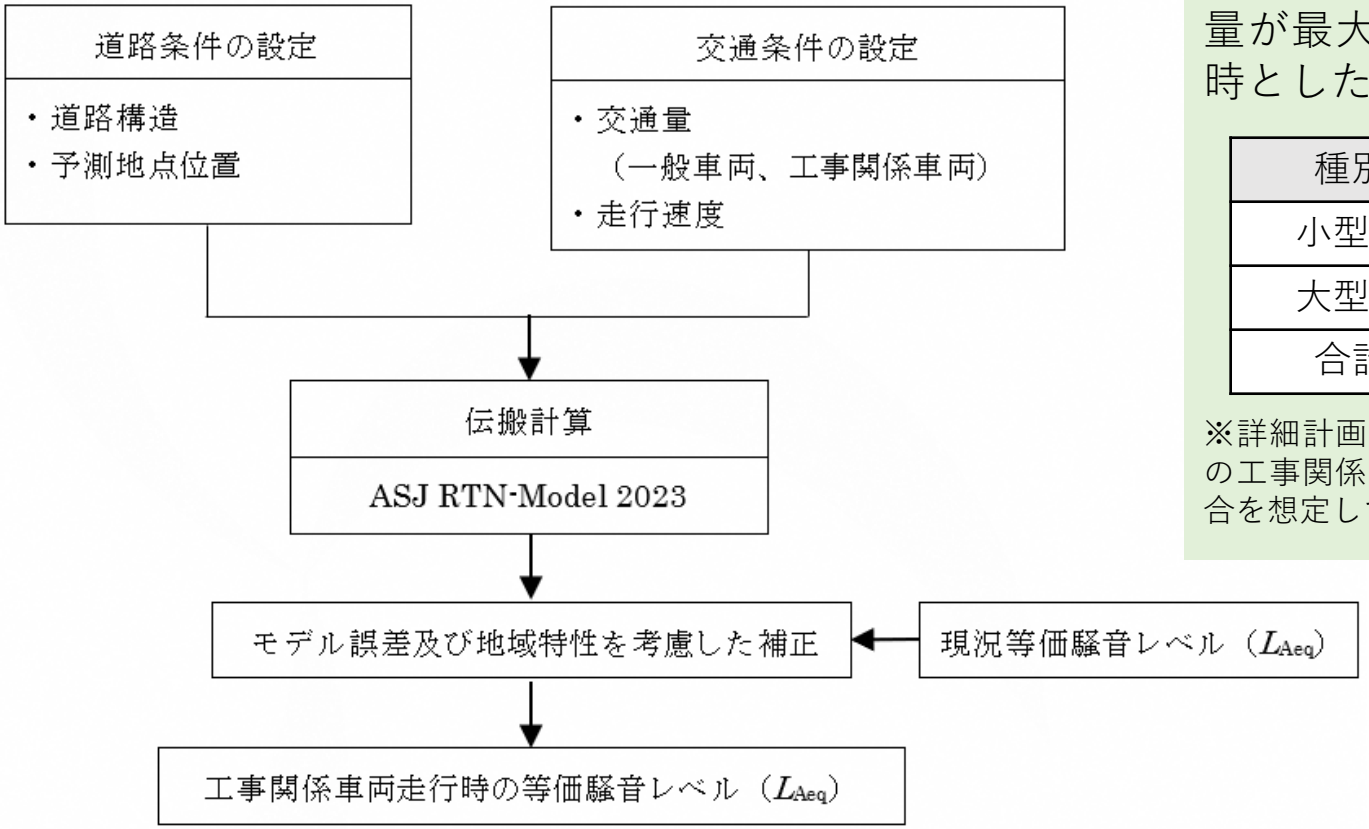


準備書p.10.1.1-2(532)、12(542)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ①工事関係車両による道路交通騒音

(2)予測方法



工事用資材の搬出入に伴う道路交通騒音の予測手順

予測対象時期は、小型車換算交通量が最大となるコンクリート打設時とした。

種別	工事関係車両台数
小型車	172
大型車	374
合計	546

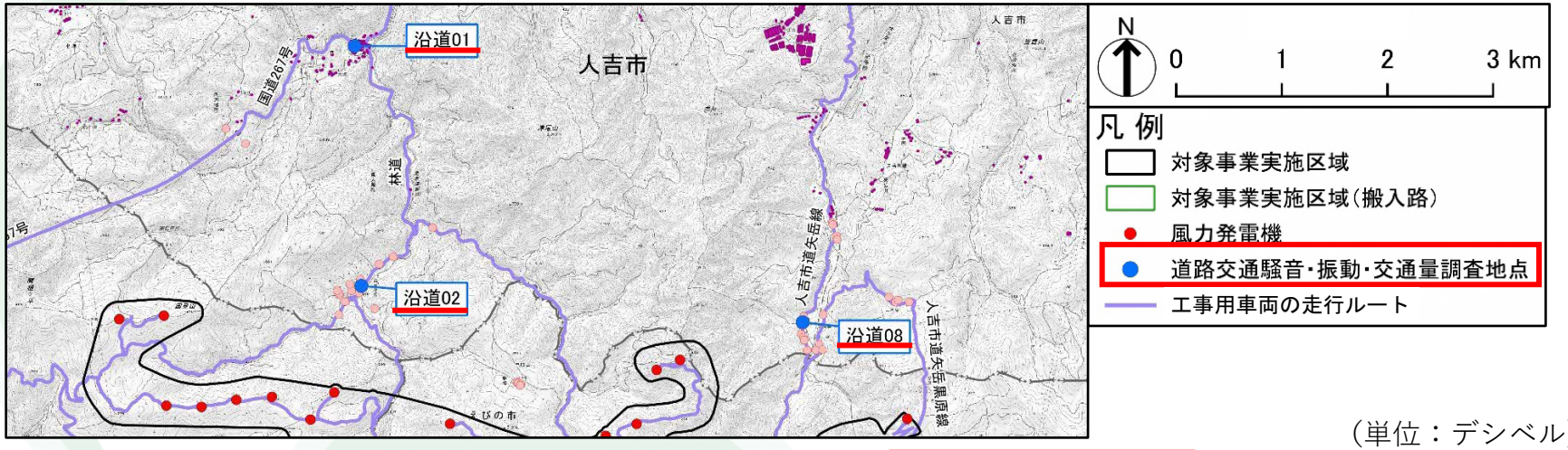
※詳細計画が確定していないため、最大台数の工事関係車両が各走行ルートを通過する場合を想定して予測を行った。

準備書p.10.1.1-35(565)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　①工事関係車両による道路交通騒音

(3)予測結果



（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	現況実測値（一般車両）[a]	現況計算値（一般車両）	将来計算値（一般車両＋工事関係車両）	補正後将来予測値（一般車両＋工事関係車両）[b]	工事関係車両による増分 [b-a]	環境基準	要請限度
沿道01	平日昼間	64	65	67	66	2	70	75
	土曜昼間	64	65	68	67	3	70	75
沿道02	平日昼間	49	53	67	63	14	65	75
	土曜昼間	49	51	67	65	16	65	75
沿道08	平日昼間	48	53	66	61	13	65	75
	土曜昼間	46	52	66	60	14	65	75

⇒いずれも**環境基準以下**

準備書p.10.1.1-39(569)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ①工事関係車両による道路交通騒音

(4)環境保全措置

- 工事工程等の調整により、工事関係車両台数を平準化することにより、ピーク時の台数を減らす。
- 工事関係者の乗り合い通勤の徹底を図ることにより、工事関係車両台数を低減する。
- 工事関係車両が一つのルートに集中しないようにルート配分を検討し、工事関係車両台数の分散に努める。
- 車両が集中する通勤時間帯には、できる限り工事用資材等の搬出入を行わない。
- 急発進、急加速の禁止及びアイドリングストップ等、エコドライブの実施を工事関係者に徹底する。
- 定期的に会議等を行い、環境保全措置を工事関係者に周知徹底する。

(5)評価の結果

予測結果はいずれも環境基準、要請限度以下であり、かつ、上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

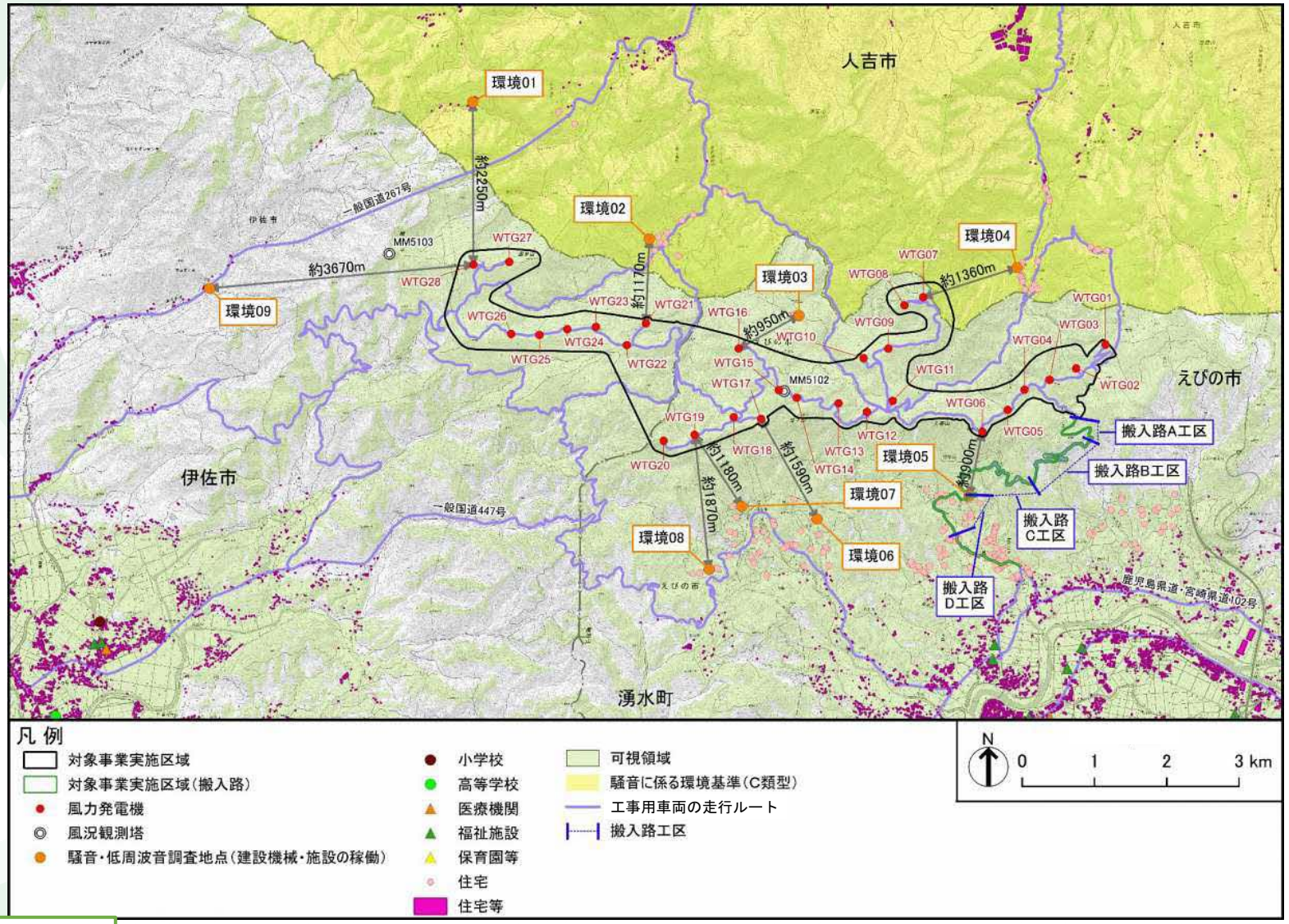
ただし、工事関係車両による騒音について、地元住民から問合せ等があった場合には、速やかにヒアリングを行い、状況に応じて専門家等の助言を踏まえて、対策を検討します。

準備書p.10.1.1-40(570)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ②建設機械の稼働による騒音

(1)調査地点図

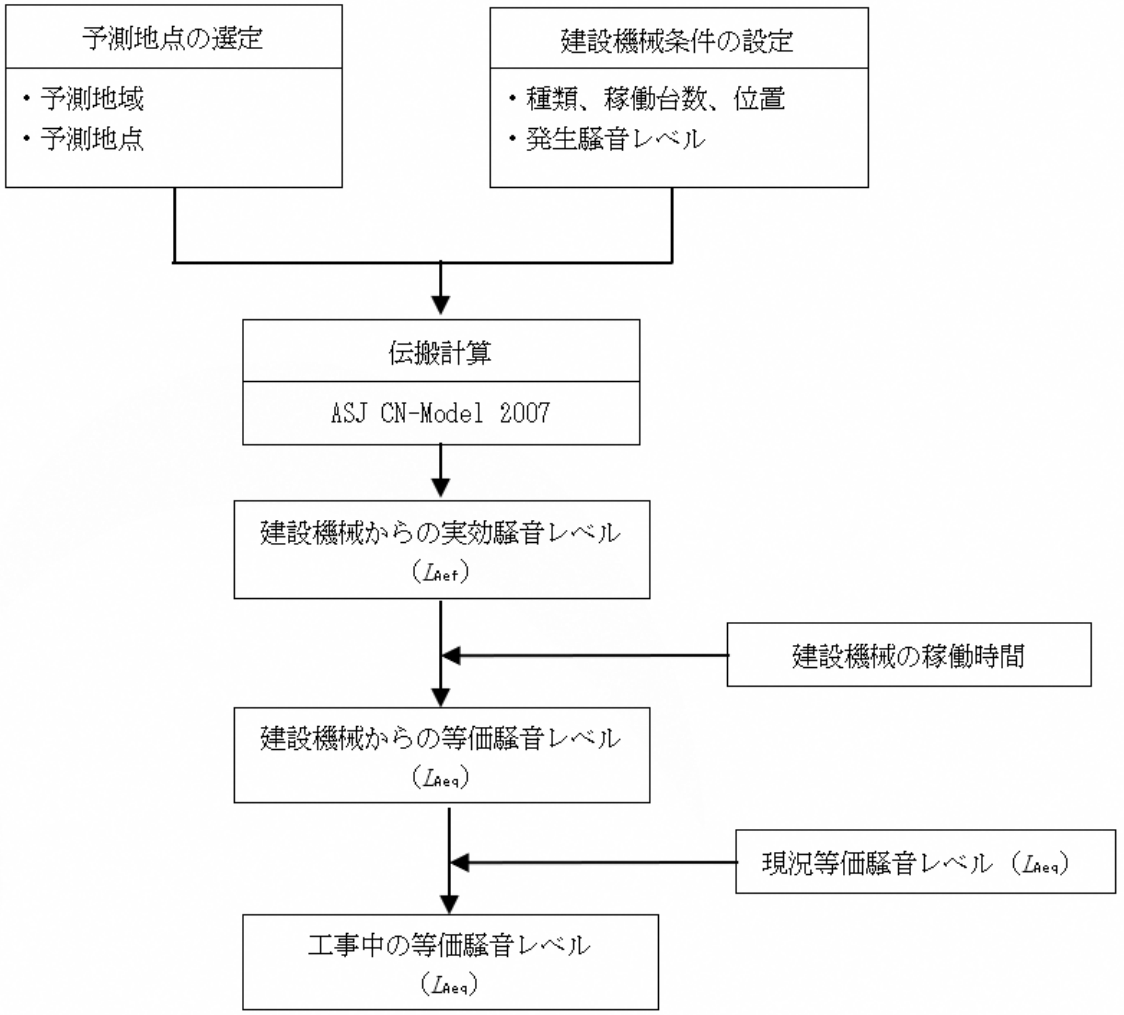


準備書p.10.1.1-12(542)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　②建設機械の稼働による騒音

(2)予測方法



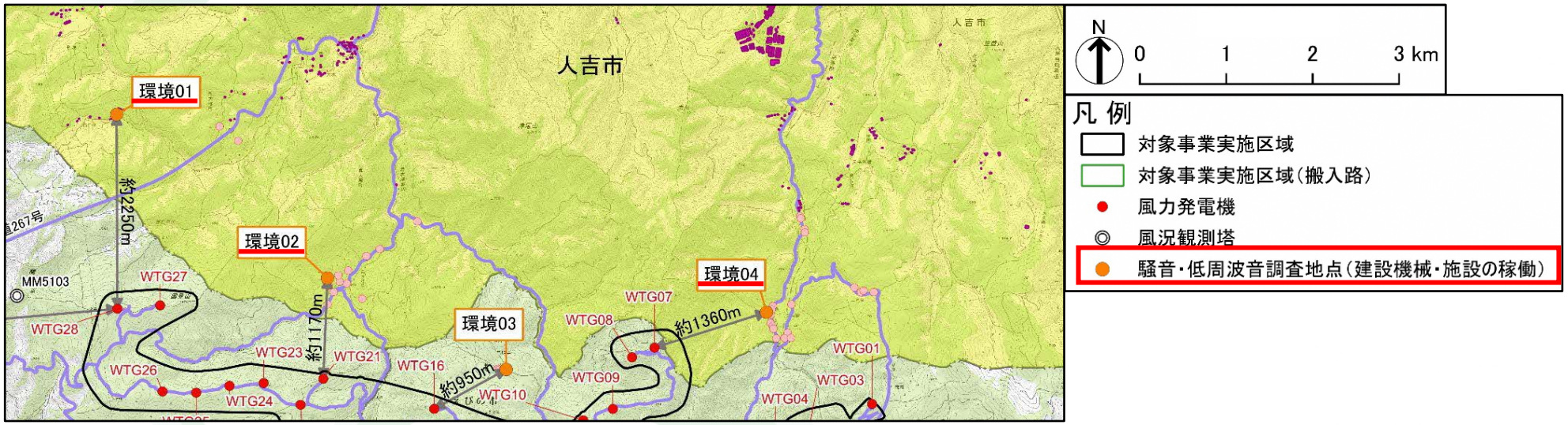
建設機械の稼働に伴う騒音の予測手順

準備書p.10.1.1-42(572)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　②建設機械の稼働による騒音

(3)予測結果



(平日)　(単位：デシベル)

予測地点	現況値	将来予測値		増分	環境基準
		寄与値	合成値		
環境01	35	40	41	6	60
環境02	35	43	44	9	60
環境04	34	44	44	10	60

(土曜日)　(単位：デシベル)

予測地点	現況値	将来予測値		増分	環境基準
		寄与値	合成値		
環境01	36	40	41	5	60
環境02	35	43	44	9	60
環境04	32	44	44	12	60

⇒いずれも**環境基準以下**

準備書p.10.1.1-46(576)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　②建設機械の稼働による騒音

(4)環境保全措置

- 建設機械の点検・整備を十分に行い、性能を維持する。
- 工事に使用する建設機械は、可能な限り低騒音型の建設機械を使用する。
- 大きな騒音が発生する建設機械の使用時期が集中しないよう、工事工程及び工事工法に十分に配慮する。
- 環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底する。

(5)評価の結果

予測結果はいずれも環境基準以下であり、かつ、上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

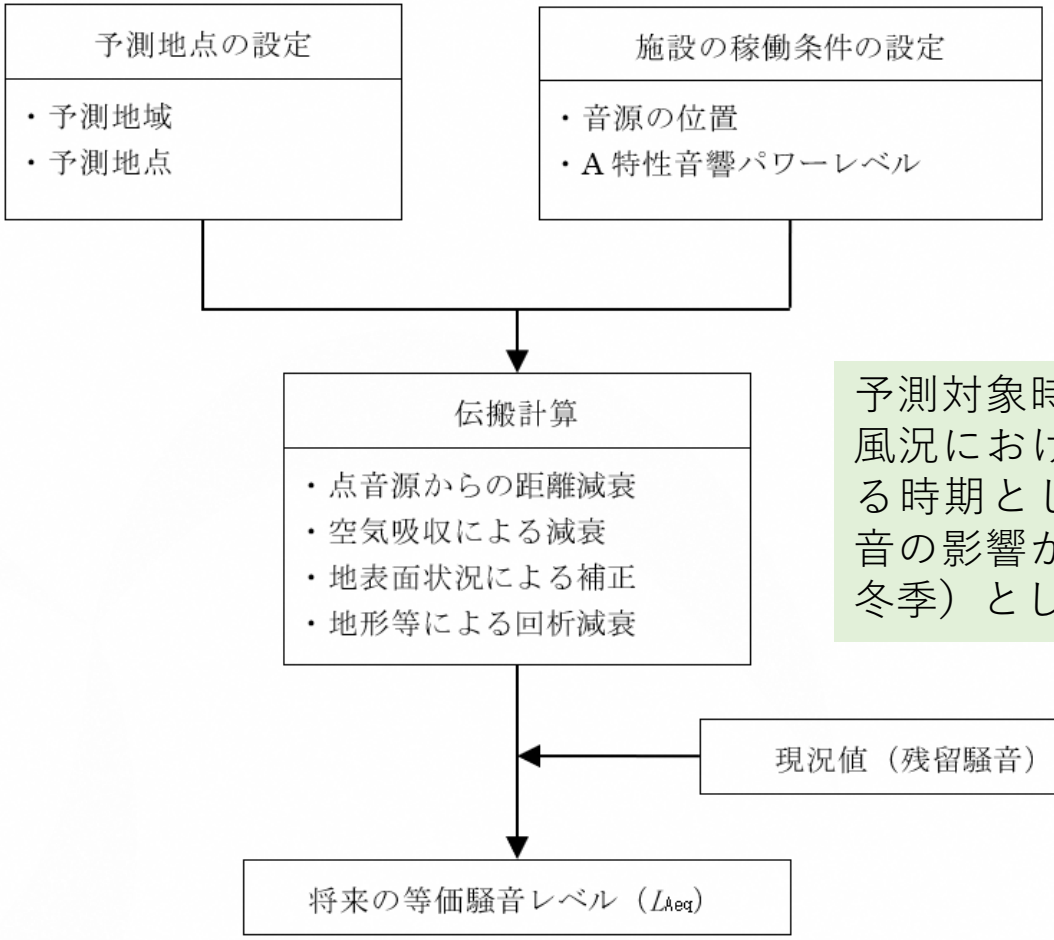
ただし、建設機械の稼働による騒音について、地元住民から問合せ等があった場合には、速やかにヒアリングを行い、状況に応じて専門家等の助言を踏まえて、対策を検討します。

準備書p.10.1.1-48(578)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ③施設の稼働による騒音

(1)予測方法



予測対象時期は、年間の代表的な風況における環境騒音が把握できる時期として3季（セミ等の生物音の影響が小さい春季、秋季及び冬季）とした。

施設の稼働に伴う騒音の予測手順

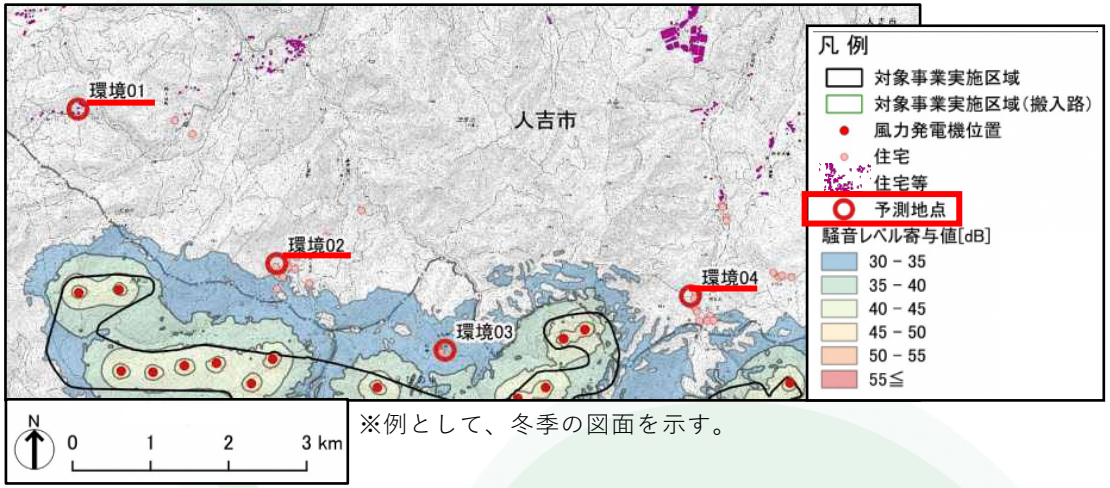
準備書p.10.1.1-50(580)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動

(2)予測結果

③施設の稼働による騒音



※例として、冬季の図面を示す。

(冬季)

(単位：デシベル)

予測地点	時間区分	現況値	寄与値	予測値	増分	指針値	判定
環境01	昼間	33	20	33	0	40	○
	夜間	33		33	0	40	○
環境02	昼間	35	29	36	1	40	○
	夜間	34		35	1	40	○
環境04	昼間	27	27	30	3	35	○
	夜間	25		29	4	35	○

(春季)

(単位：デシベル)

予測地点	時間区分	現況値	寄与値	予測値	増分	指針値	判定
環境01	昼間	48	18	48	0	53	○
	夜間	47		47	0	52	○
環境02	昼間	51	27	51	0	56	○
	夜間	51		51	0	56	○
環境04	昼間	44	26	44	0	49	○
	夜間	45		45	0	50	○

(秋季)

(単位：デシベル)

予測地点	時間区分	現況値	寄与値	予測値	増分	指針値	判定
環境01	昼間	36	22	36	0	41	○
	夜間	37		37	0	42	○
環境02	昼間	36	31	37	1	41	○
	夜間	37		38	1	42	○
環境04	昼間	32	28	33	1	40	○
	夜間	32		33	1	40	○

⇒いずれも**指針値以下**

準備書p.10.1.1-56(586)～61(591)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ③施設の稼働による騒音

(3)環境保全措置

- 風力発電機は、住宅等から可能な限り離隔して設置する。
- 風力発電施設の適切な点検・整備を実施し、性能維持に努め、騒音の原因となる異常音等の発生を低減する。

(4)評価の結果

予測結果はいずれも指針値以下であり、かつ、上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

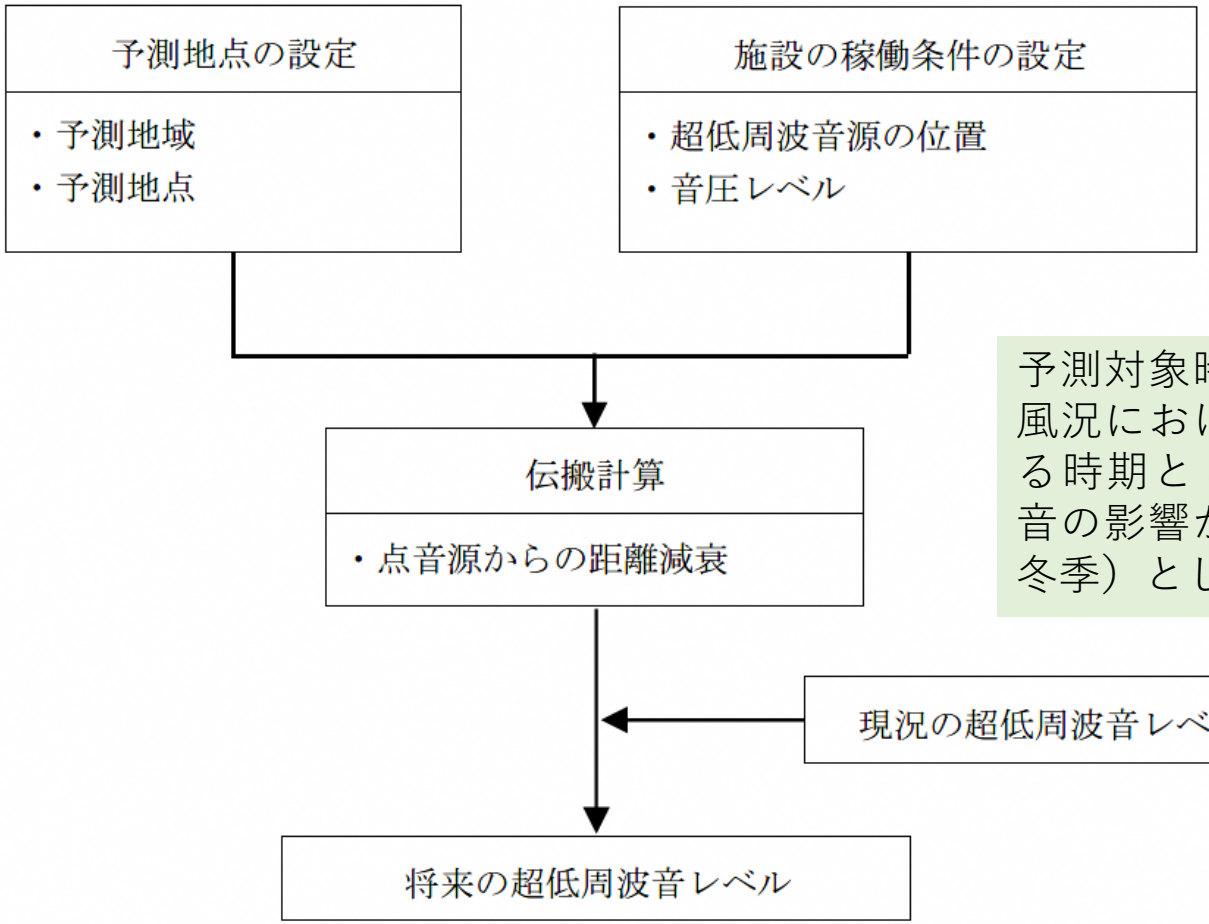
ただし、施設の稼働による騒音について、地元住民から問合せ等があった場合には、速やかにヒアリングを行い、状況に応じて専門家等の助言を踏まえて、対策を検討します。

準備書p.10.1.1-64(594)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　④施設の稼働による低周波音

(1)予測方法



予測対象時期は、年間の代表的な風況における低周波音が把握できる時期として3季（セミ等の生物音の影響が小さい春季、秋季及び冬季）とした。

施設の稼働に伴う超低周波音の予測手順

準備書p.10.1.1-87(617)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　④施設の稼働による低周波音

(2)予測結果



※例として、冬季の図面を示す。

(冬季)

(単位：デシベル)

予測地点	時間区分	現況値	寄与値	予測値	増分
環境01	昼間	48	58	58	10
	夜間	43		58	15
環境02	昼間	49	63	63	14
	夜間	43		63	20
環境04	昼間	50	63	63	13
	夜間	43		63	20

(春季)

(単位：デシベル)

予測地点	時間区分	現況値	寄与値	予測値	増分
環境01	昼間	53	58	59	6
	夜間	52		59	7
環境02	昼間	50	63	63	13
	夜間	46		63	17
環境04	昼間	46	63	63	17
	夜間	43		63	20

(秋季)

(単位：デシベル)

予測地点	時間区分	現況値	寄与値	予測値	増分
環境01	昼間	50	58	59	9
	夜間	43		58	15
環境02	昼間	46	63	63	17
	夜間	43		63	20
環境04	昼間	50	63	63	13
	夜間	44		63	19

⇒いずれも**超低周波音を感じる最小音圧レベル(100デシベル)以下**

準備書p.10.1.1-89(619)～10.1.1-120(650)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ④施設の稼働による低周波音

(3)環境保全措置

- 風力発電機は、住宅等から可能な限り離隔して設置する。
- 風力発電施設の適切な点検・整備を実施し、性能維持に努め、低周波音の原因となる異常音等の発生を低減する。

(4)評価の結果

予測結果はいずれも「超低周波音を感じる最小音圧レベル」である100デシベルを大きく下回り、かつ、上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

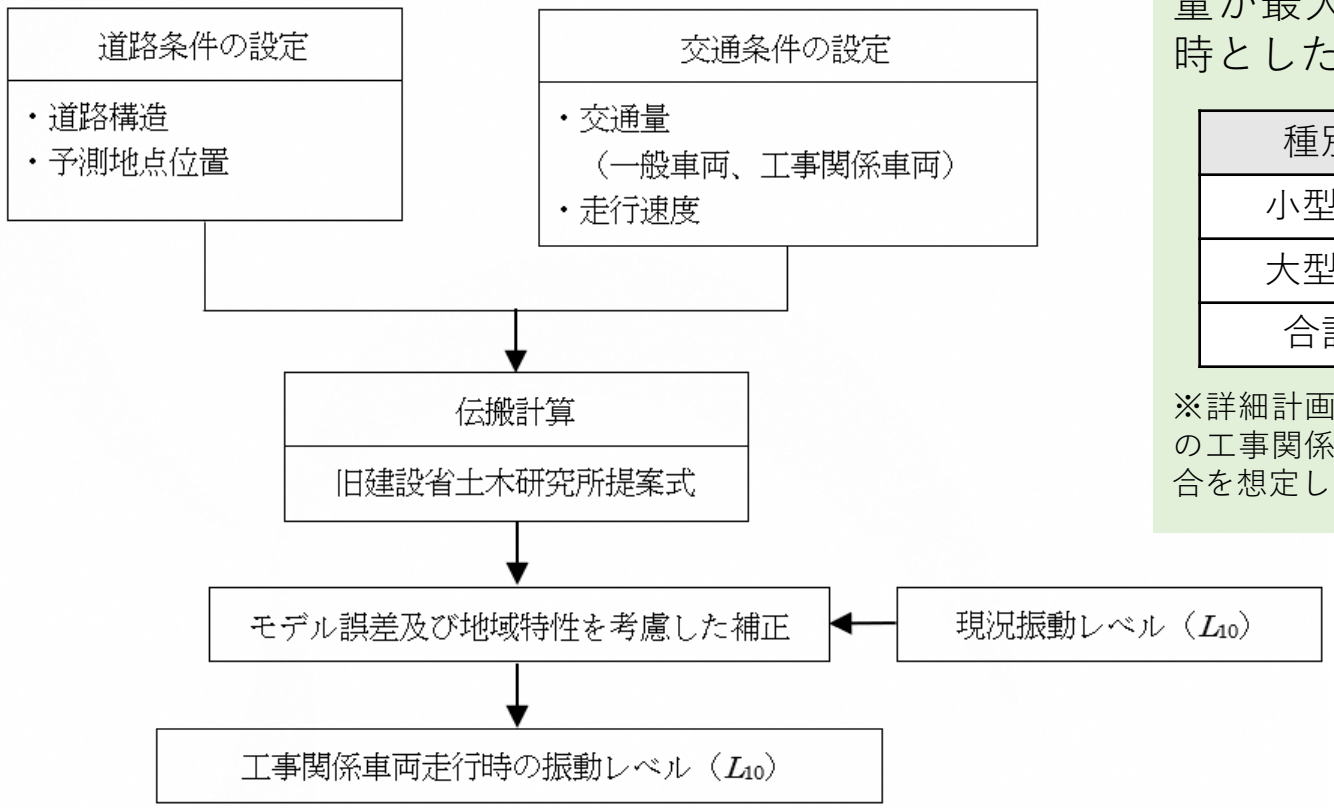
ただし、施設の稼働による低周波音について、地元住民から問合せ等があった場合には、速やかにヒアリングを行い、状況に応じて専門家等の助言を踏まえて、対策を検討します。

準備書p.10.1.1-121(651)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ⑤工事関係車両による道路交通振動

(1)予測方法



工事用資材等の搬出入に伴う道路交通振動の予測手順

予測対象時期は、小型車換算交通量が最大となるコンクリート打設時とした。

種別	工事関係車両台数
小型車	172
大型車	374
合計	546

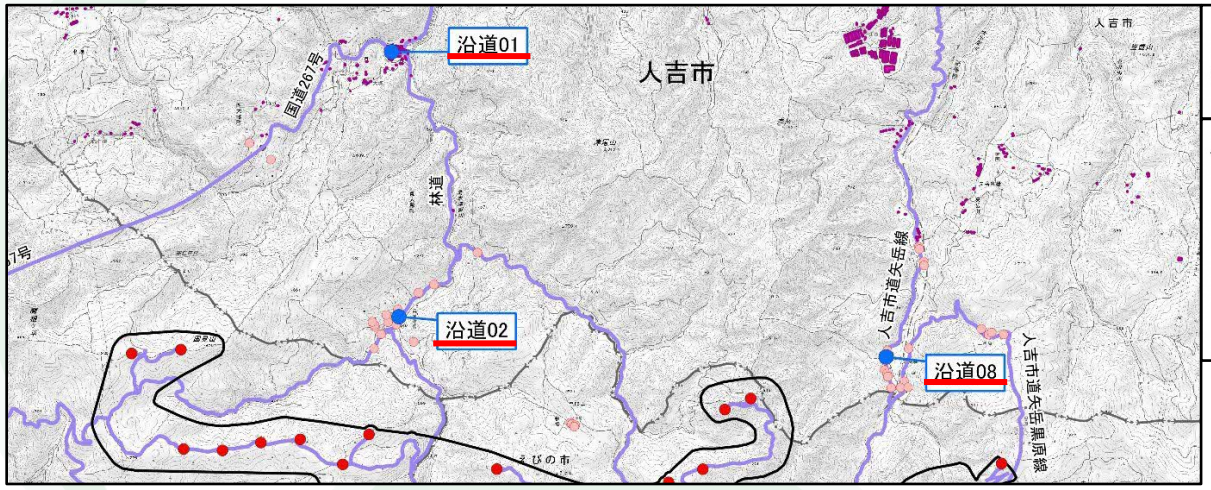
※詳細計画が確定していないため、最大台数の工事関係車両が各走行ルートを通過する場合を想定して予測を行った。

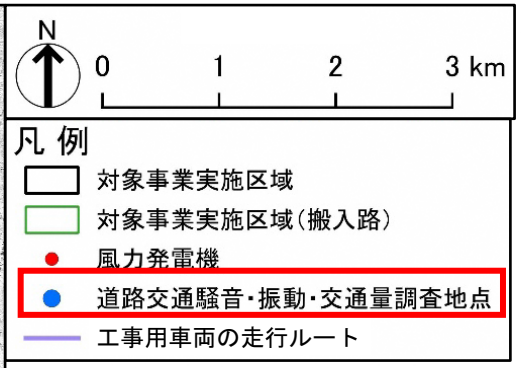
準備書p.10.1.1-133(663)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動　⑤工事関係車両による道路交通振動

(2)予測結果





(単位：デシベル)

予測地点	時間区分	現況実測値（一般車両）[a]	現況計算値（一般車両）	将来計算値（一般車両＋工事関係車両）	補正後将来予測値（一般車両＋工事関係車両）[b]	工事関係車両による増分 [b-a]	要請限度
沿道01	平日昼間	28	37	41	32	4	70
	土曜昼間	27	37	41	31	4	70
沿道02	平日昼間	<25	<10	32	47	22	70
	土曜昼間	<25	<10	34	49	24	70
沿道08	平日昼間	<25	<10	38	53	28	70
	土曜昼間	<25	10	39	54	29	70

⇒いずれも**要請限度以下**

準備書p.10.1.1-137(667)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

騒音、超低周波音、振動 ⑤工事関係車両による道路交通振動

(3)環境保全措置

- 工事工程等の調整により、工事関係車両台数を平準化することにより、ピーク時の台数を減らす。
- 工事関係者の乗り合い通勤の徹底を図ることにより、工事関係車両台数を低減する。
- 工事関係車両が一つのルートに集中しないようにルート配分を検討し、工事関係車両台数の分散に努める。
- 車両が集中する通勤時間帯には、できる限り工事用資材等の搬出入を行わない。
- 重量車・大型車については、住宅地での慎重な運転を行うことにより道路交通振動の低減に努める。
- 急発進、急加速の禁止及びアイドリングストップ等、エコドライブの実施を工事関係者に徹底する。
- 定期的に会議等を行い、環境保全措置を工事関係者に周知徹底する。

(4)評価の結果

予測結果はいずれも要請限度以下であり、かつ、上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

ただし、工事関係車両による振動について、地元住民から問合せ等があった場合には、速やかにヒアリングを行い、状況に応じて専門家等の助言を踏まえて、対策を検討します。

準備書p.10.1.1-138(668)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

水質

(1)予測方法

①沈砂池排水口から河川又は障害物までの距離算出

↓

②沈砂池排水口からの濁水到達推定距離の算出

↓

③濁水の河川到達有無の判断
沈砂池排水が土壌に浸透し、河川まで達するか否かを予測。達すると予測された場合は以下のフローに進む。

↓

④濁水発生部分の面積（ヤード等）

← 降雨条件

← 流出係数

↓

⑤濁水の沈砂池流入流量（排出量）

← 濁水中の初期浮遊物質量

← 沈砂池条件設定（面積）

← 沈降特性係数
（土壌試料の沈降試験）

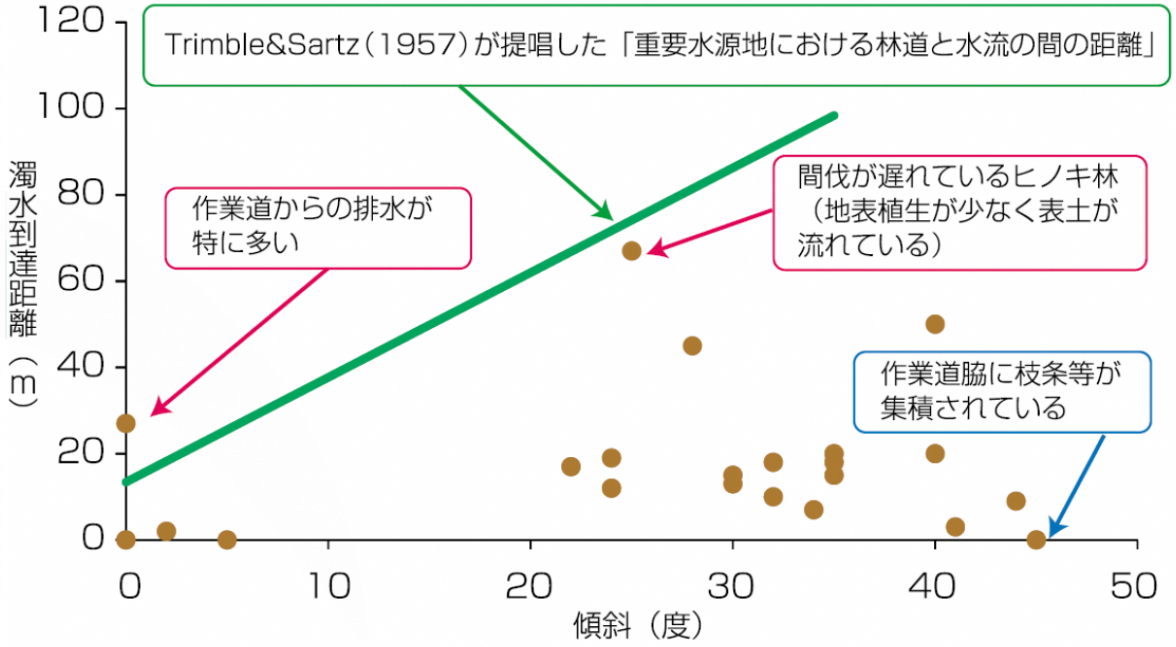
↓

⑥沈砂池排水口の濁水中の浮遊物質量

↓

⑦予測対象河川の浮遊物質量を計算

水質予測の手順



林地の傾斜と作業道からの土砂到達距離の関係

準備書p.10.1.2-28(696)

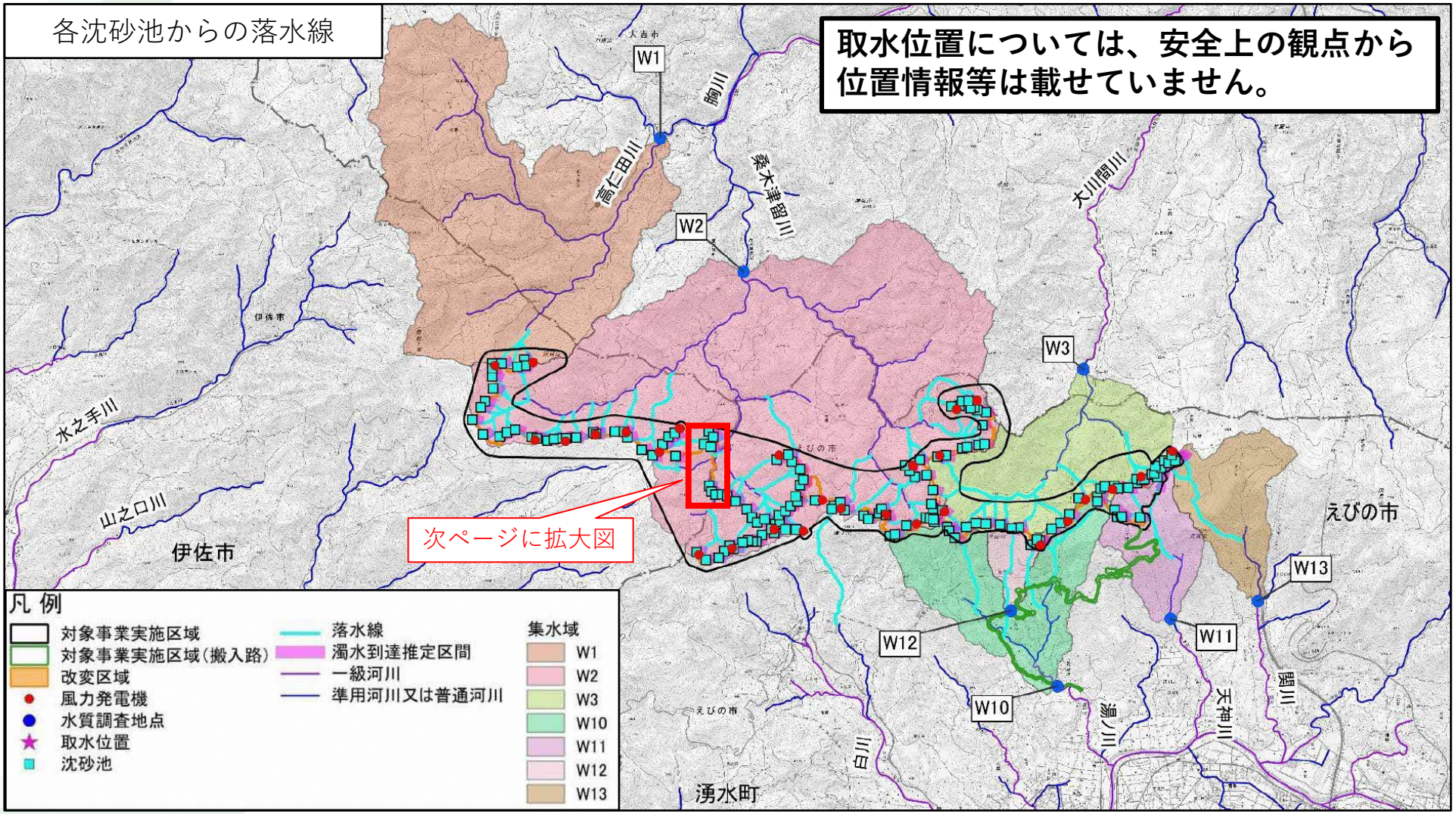
Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

水質

(2)予測結果①

各沈砂池からの落水線

取水位置については、安全上の観点から位置情報等は載せていません。

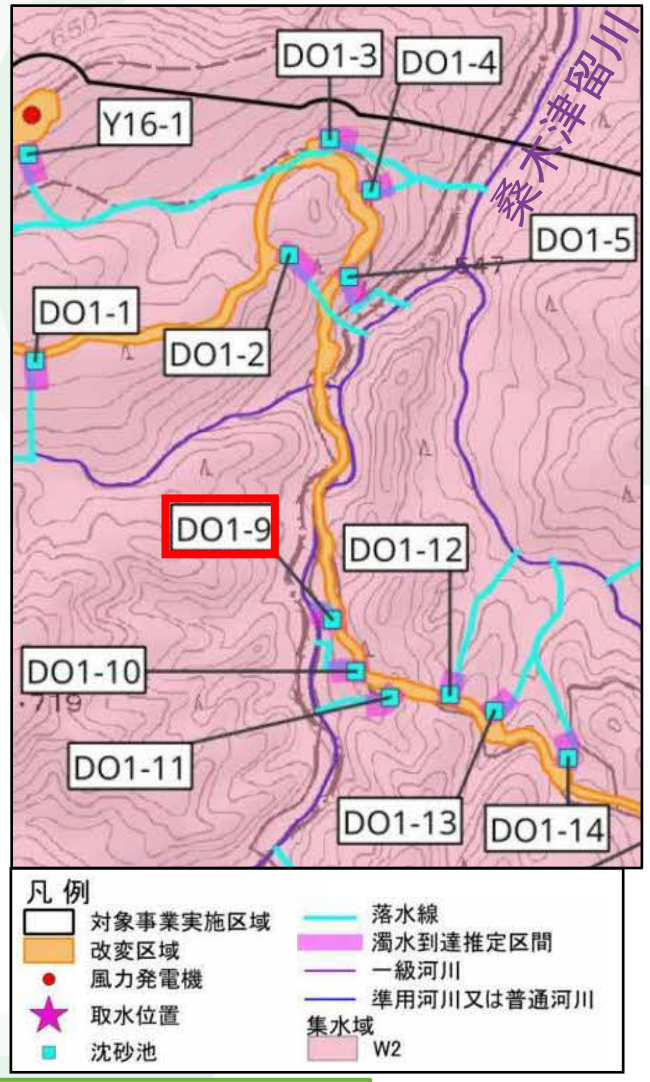


準備書p.10.1.2-48(16)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

水質

(2)予測結果②



準備書p.10.1.2-39(707)～58(726)

排水口からの濁水到達推定距離（抜粋）

沈砂池 No.	放流流域	排水口付近の斜面斜度（度）	排水口から河川又は障害物までの斜面長（m）	濁水到達推定距離（m）	濁水到達の有無
Y16-1	桑木津留川	7.2	796.4	30.6	無
DO1-1	桑木津留川	6.3	166.0	28.5	無
DO1-2	桑木津留川	8.8	105.2	34.5	無
DO1-3	桑木津留川	5.9	226.2	27.6	無
DO1-4	桑木津留川	6.5	165.5	29.1	無
DO1-5	桑木津留川	8.8	54.4	34.7	無
DO1-9	桑木津留川	6.3	12.9	28.6	有
DO1-10	桑木津留川	4.4	66.4	23.8	無
DO1-11	桑木津留川	5.2	108.5	25.9	無
DO1-12	桑木津留川	4.3	274.1	23.8	無
DO1-13	桑木津留川	4.1	267.2	23.2	無
DO1-14	桑木津留川	3.4	339.6	21.5	無

河川中の浮遊物質量濃度の予測

沈砂池 No.	降雨量区分	排水中の浮遊物質量濃度（mg/L）	河川水中の浮遊物質量濃度（mg/L）	現地調査における最大浮遊物質量濃度（mg/L）
DO1-9	3mm/h	30.4	80.0	80（桑木津留川）
	94.5mm/h	204.6	80.1	

⇒排水地点全156地点のうち、1地点からの排水が河川まで到達するものの、**河川水中の浮遊物質量濃度に大きな変化は生じない**

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

水質

(3)環境保全措置

- 地形等を十分考慮し、改変面積を最小限にとどめる。
- 造成工事にあたっては、降雨時における土砂の流出による濁水の発生対策として、沈砂池等濁水対策工を先行する。
- 沈砂池は、定期的に確認を行い、適宜、浚渫を行うことにより、沈砂機能の維持に努める。
- 土砂の流出を防止する対策として、適切な場所に土砂流出防止柵等を設置する。
- 工事用道路には側溝を設置し、流末に沈砂池を設ける。
- 集中的な降雨が発生した場合は、沈砂池の状況の確認を行う。

(4)評価の結果

予測結果より、上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

準備書p.10.1.2-59(727)

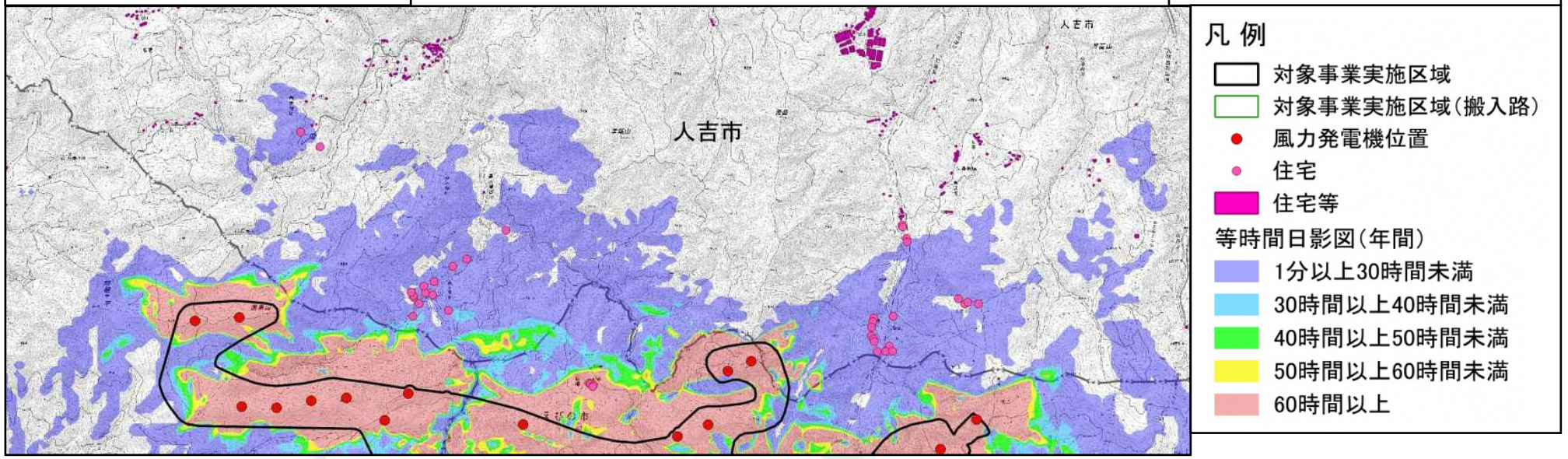
Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

その他の環境（風車の影）

(1)予測結果①

（実際の気象条件を考慮しない場合）
1戸が年間30時間及び1日最大30分を超過する

等時間日影予測結果（年間）



風車の影がかかる時間の予測結果

予測範囲	住宅数（戸）	風力発電機までの最短距離（m）	気象条件を考慮しない場合 ①年間30時間を超える住宅数（戸）	②1日最大30分を超える住宅数（戸）	①かつ②	①または②	実際の気象条件を考慮した場合 年間8時間を超える住宅数（戸）
人吉市	34	860	1	1	1	1	0

⇒**実際の気象条件を考慮した場合は年間8時間を超過しない**

準備書p.10.1.3-10(738)～16(744)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

その他の環境（風車の影）

(1)予測結果②

個別の住宅の情報を含むため、個人情報保護の観点から非公開場のみ記載しております。

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

その他の環境（風車の影）

(1)予測結果③ （拡大）

個別の住宅の情報を含むため、個人情報保護の観点から非公開場のみ記載しております。

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

その他の環境（風車の影）

(2)環境保全措置

- 風力発電施設は、住宅等から可能な限り離隔して設置する。
- 施設の稼働後、影響があると確認された場合には、対象の住民と協議の上、必要に応じて遮光カーテン設置、ブラインド設置、植栽等の適切な対応を検討する。

(3)評価の結果

本事業の計画検討の際には、可能な限り住宅との距離を確保した配置としたことに加え、上記の環境保全措置を実施するとともに、施設の供用開始前に予測地点の住宅等を含めた地域に説明を行い、施設の稼働後に問い合わせ等が発生した場合には、速やかに該当住民からヒアリングを行い、個々の状況に応じた適切な対策を講じることとします。

以上のことから、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

また、施設の稼働後には**事後調査**を実施し、実際の影響の有無の確認を行います。

準備書p.10.1.3-17(745)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

動物

(1)調査結果

重要な種として、哺乳類12種、鳥類44種、爬虫類3種、両生類8種、昆虫類44種、陸産貝類29種、魚類2種、底生動物7種を確認

分類群	確認種数	重要な種の種数	重要な種
哺乳類	22種	12種	ジネズミ、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、ムササビ、ヤマネ、ヒメネズミ、カヤネズミ、キツネ、イタチ属
鳥類	122種	44種	オシドリ、ヨタカ、ジュウイチ、ヒクイナ、イカルチドリ、ミゾゴイ、ミサゴ、ハチクマ、クマタカ、オオコノハズク、ブッポウソウ、アカショウビン、オオアカゲラ等
爬虫類	12種	3種	ニホンイシガメ、タカチホヘビ、シロマダラ
両生類	12種	8種	ベッコウサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、カジカガエル
昆虫類	1,633種	44種	ヒゴキムラグモ、ホウシグモ、キイトトンボ、エサキクチキゴキブリ、ミドリヒョウモン、ジャノメチョウ、コガタノゲンゴロウ、マダラクワガタ、クロカナブン等
陸産貝類	60種	29種	サツマムシオイガイ、ヒダリマキゴマガイ、オキギセル、アメイロギセル、サツマオカチョウジガイ、ツノイロヒメベッコウ、カサキビ、ヒメカサキビ、タワラガイ等
魚類	8種	2種	サクラマス（ヤマメ）、オオヨシノボリ
底生動物	238種	7種	ヒラマキガイモドキ、マメシジミ属、サワガニ、ムカシトンボ、ナベブタムシ、クチキトビケラ、ヘイケボタル


ベッコウサンショウウオ


ノレンコウモリ


ハヤブサ

準備書p.10.1.4-175(921)～366(1112)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

動物

(2)予測結果

- 現地調査で確認した動物の重要な種及び渡り鳥を予測対象とし、以下に示す影響要因から事業影響を検討

区分	影響要因	予測対象
工事中及び稼働後	改変による生息環境の減少・消失	全ての動物
	移動経路の遮断・阻害	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類
工事中	騒音による生息環境の悪化	哺乳類、鳥類
	騒音による餌資源の逃避・減少	哺乳類、鳥類
	工事関係車両への接触	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類
	濁水の流入による生息環境の悪化	鳥類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物
稼働後	ブレード・タワー等への接近・接触	哺乳類（コウモリ類）、鳥類
	夜間照明による誘引	鳥類、昆虫類

準備書p.10.1.4-476(1222)～731(1477)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

動物

(3)環境保全措置、評価の結果

環境保全措置として以下の対策を講じることから、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

区分	環境保全措置
工事中	✓風力発電機の設置及び搬入路の敷設に伴う樹木の伐採や地形の改変は、必要最小限にとどめる。また、作業ヤードとしての造成範囲は、必要最小限にとどめる。 ✓工事関係者による改変区域外への必要以上の立ち入りを制限し、動物への影響を低減する。 ✓工事関係車両の走行速度等の注意喚起に努めることで、動物と接触する事故を未然に防ぐ。 ✓造成工事にあたっては、降雨時における土砂の流出による濁水の発生対策として、沈砂池等濁水対策工を先行して実施する。 ✓土砂の流出を防止する対策として、適切な場所に土砂流出防止柵を設置する。 ✓可能な限り排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械を使用する。 ✓クマタカの繁殖期間中（1～8月頃）、特に営巣期のうち敏感度が極大となる時期（3～6月）において、可能な限り突発音が発生しないように調整する。 ✓定期的に会議等を行い、環境保全措置を工事関係者に周知徹底する。 ✓工事前に、ヤマネを確認した際の対応について、各県や市町村の文化財担当課等と協議を行う。工事中に改変予定箇所でヤマネを確認した場合、必要な許可申請等の手続きを行ったうえで、改変区域外の生息適地にヤマネを移動する。また、工事の作業員にはヤマネの生息可能性があること、およびヤマネを確認した場合の対応について十分周知を行う。
事業計画～稼働開始後	✓既存道路等を可能な限り流用することで、改変面積を最小限にとどめる。 ✓動物の生息環境を保全するため、改変区域外への必要以上の立ち入りを制限する。 ✓可能な限り送電線を地中埋没することで、鳥類等の移動経路を確保する。 ✓動物の生息環境の分断を低減するため、落下後の小動物の這い出しが難しいU字溝の採用を可能な限り少なくする。 ✓夜間に鳥類や昆虫類、コウモリ類が衝突・誘引する可能性を軽減するため、ライトアップは行わないこととする。また、航空法上必要な航空障害灯については、鳥類を誘引しにくいとされる閃光灯を採用する。

準備書p.10.1.4-732(1478)

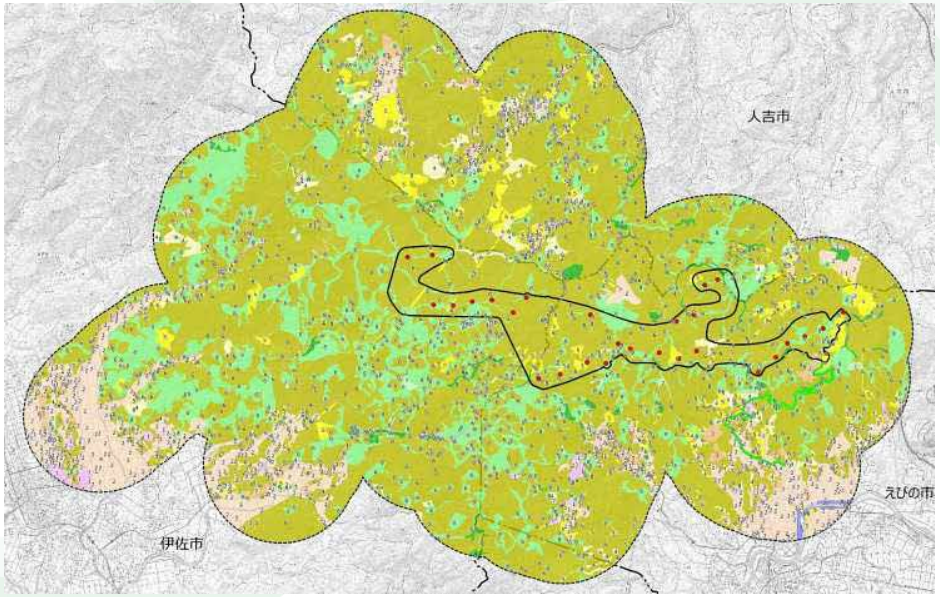
Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

植物

(1)調査結果

- 現地調査の結果、155科923種を確認。うち、重要な種は73科199種。
- 調査範囲の6割は植林地が占め、他に常緑広葉樹二次林が比較的広く分布。

分類群			確認科数	確認種数
シダ植物門	ヒカゲノカズラ綱		2	12
	大葉シダ綱		18	112
種子植物門	裸子植物亜門		4	11
	被子植物亜門	–	6	23
		単子葉類	26	220
		双子葉類	99	545
合計			155	923



植生自然度

10	自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区（自然草原）	6	植林地
9	自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区（自然林）	5	背丈の高い草原
8	代償植生であっても、特に自然植生に近い地区	4	背丈の低い草原
7	二次林と呼ばれる代償植生地区	3	樹園地
		2	耕作地、緑の多い住宅地
		1	市街地等

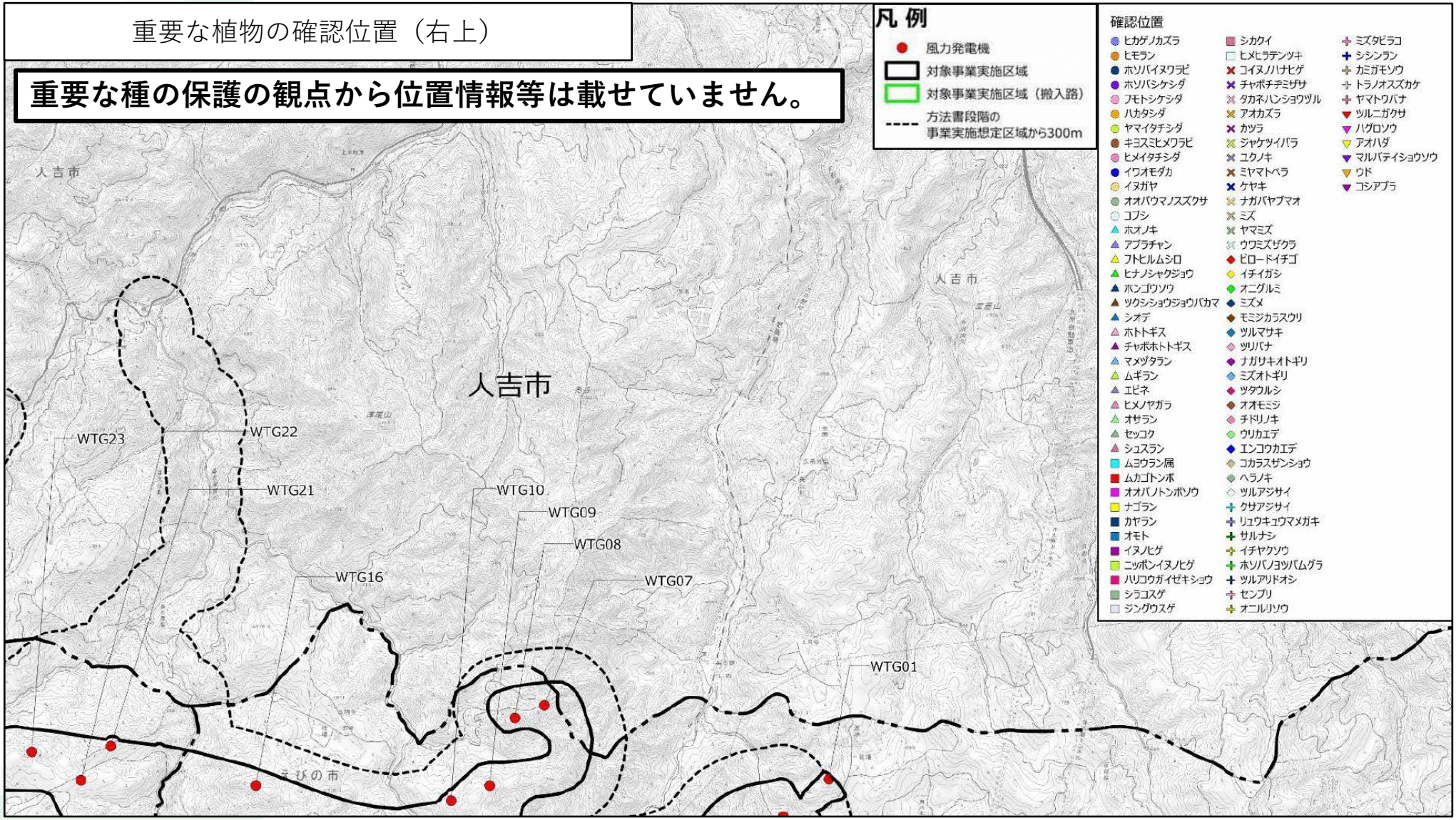
準備書p.10.1.5-8(1488)～10.1.5-231(1711)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

植物

重要な植物の確認位置（右上）

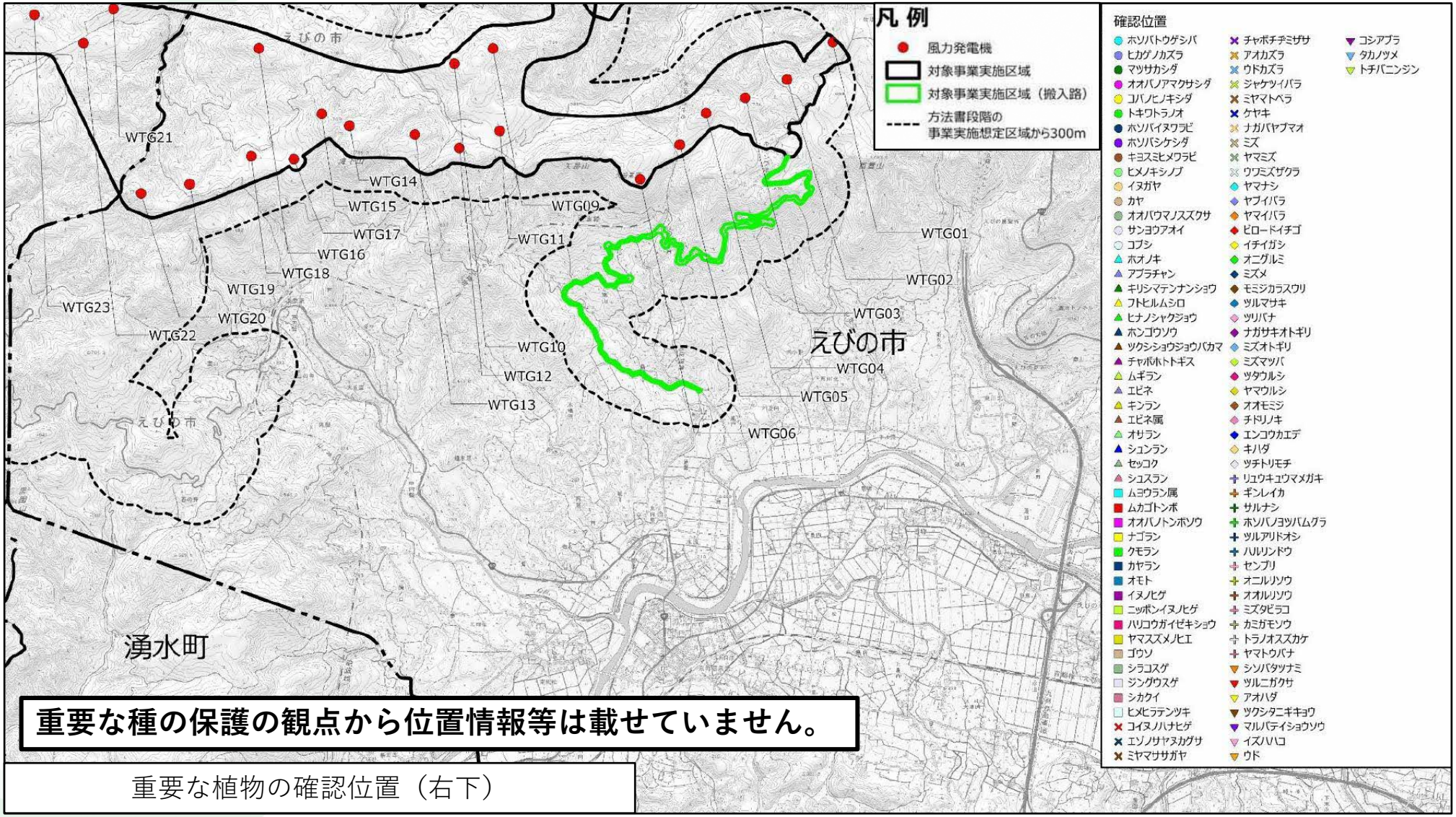
重要な種の保護の観点から位置情報等は載せていません。



準備書p.10.1.5-30(1510)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

植物



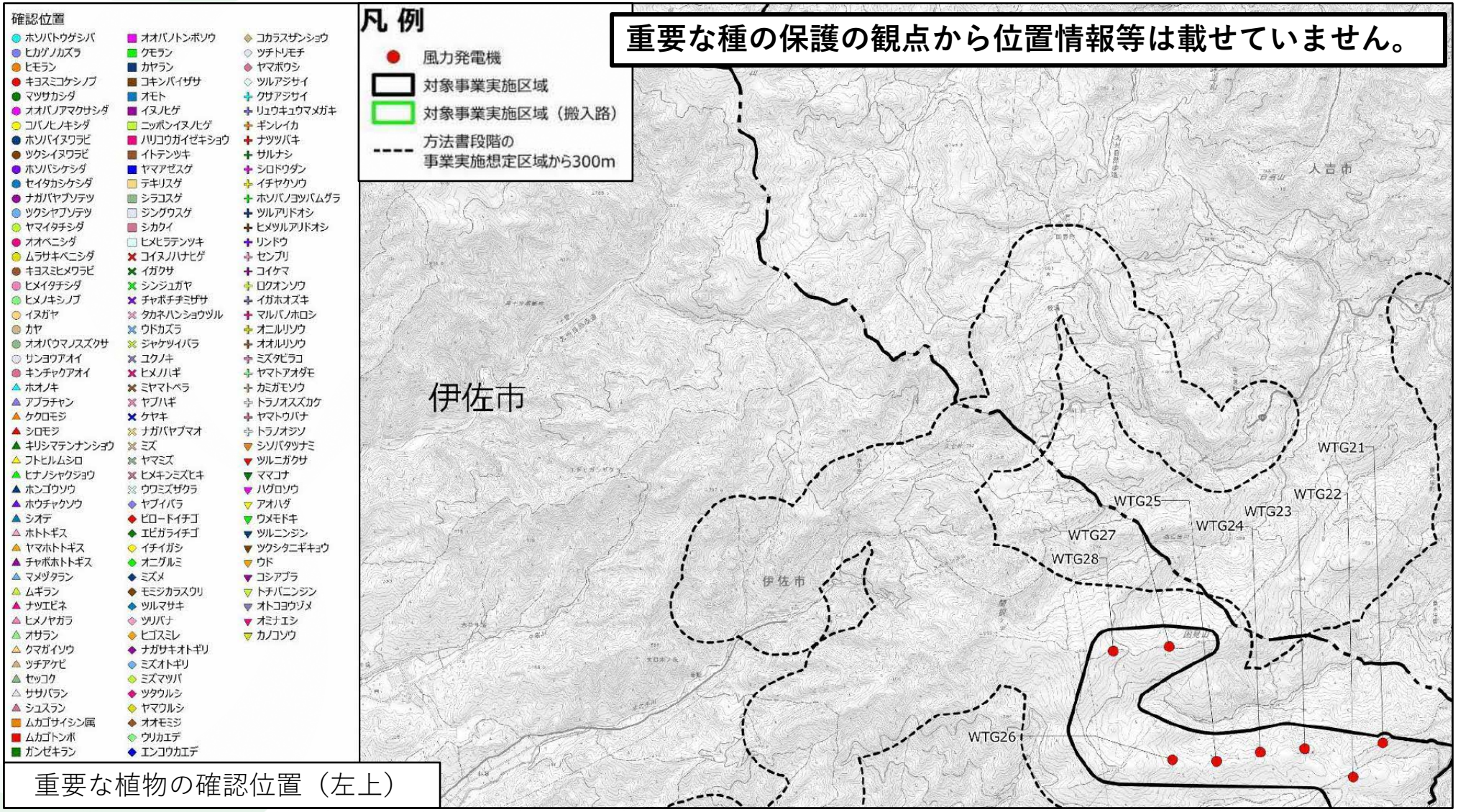
重要な種の保護の観点から位置情報等は載せていません。

重要な植物の確認位置（右下）

準備書p.10.1.5-31(1511)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

植物

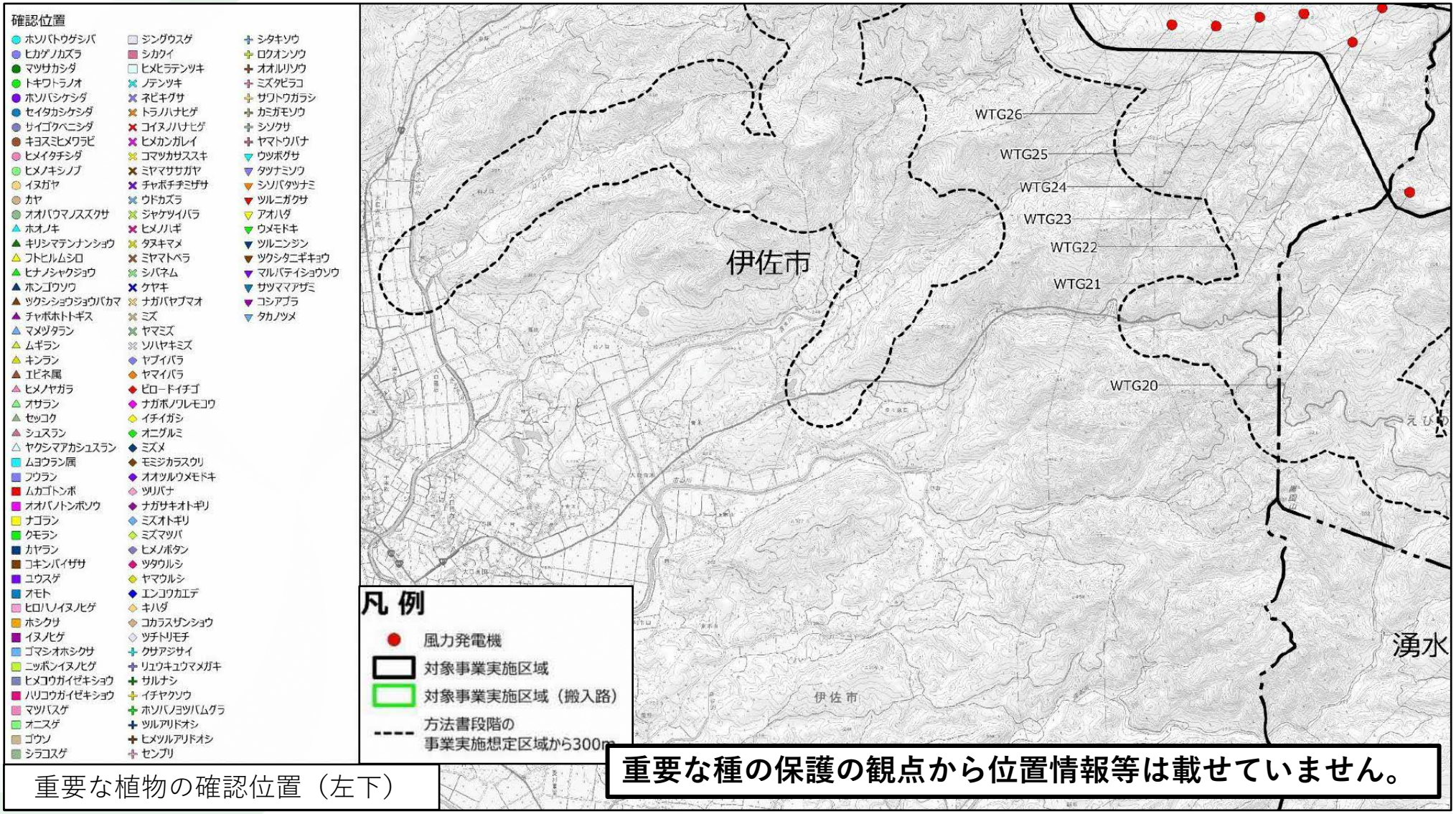


重要な植物の確認位置（左上）

準備書p.10.1.5-32(1512)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

植物



重要な植物の確認位置（左下）

重要な種の保護の観点から位置情報等は載せていません。

準備書p.10.1.5-33(1513)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

植物

(2)予測結果

- 現地調査で確認した植物の重要な種及び重要な群落を予測対象とし、直接改変による影響及び間接影響を検討
- 下表に示す重要な種6種について、直接改変による影響を受けると予測されたため、保全措置を実施。その他の重要な種及び重要な群落への影響は小さいと予測

No.	科名	種名	株数			改変率
			改変区域内	周辺区域	合計	
1	ラン科	シュンラン	9	6	15	60.0%
2		クモラン	5	3	8	62.5%
3	イグサ科	ハリコウガイゼキショウ	20	8	28	71.4%
4	ムクロジ科	オオモミジ	5	4	9	55.6%
5	ムラサキ科	オオルリソウ	10	23	33	30.3%
6	シソ科	トラノオジソ	100	13	113	88.5%


シュンラン


クモラン


オオルリソウ

準備書p.10.1.5-243(1723)～10.1.5-350(1830)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

植物

(3)環境保全措置、評価の結果

環境保全措置として以下の対策を講じることから、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

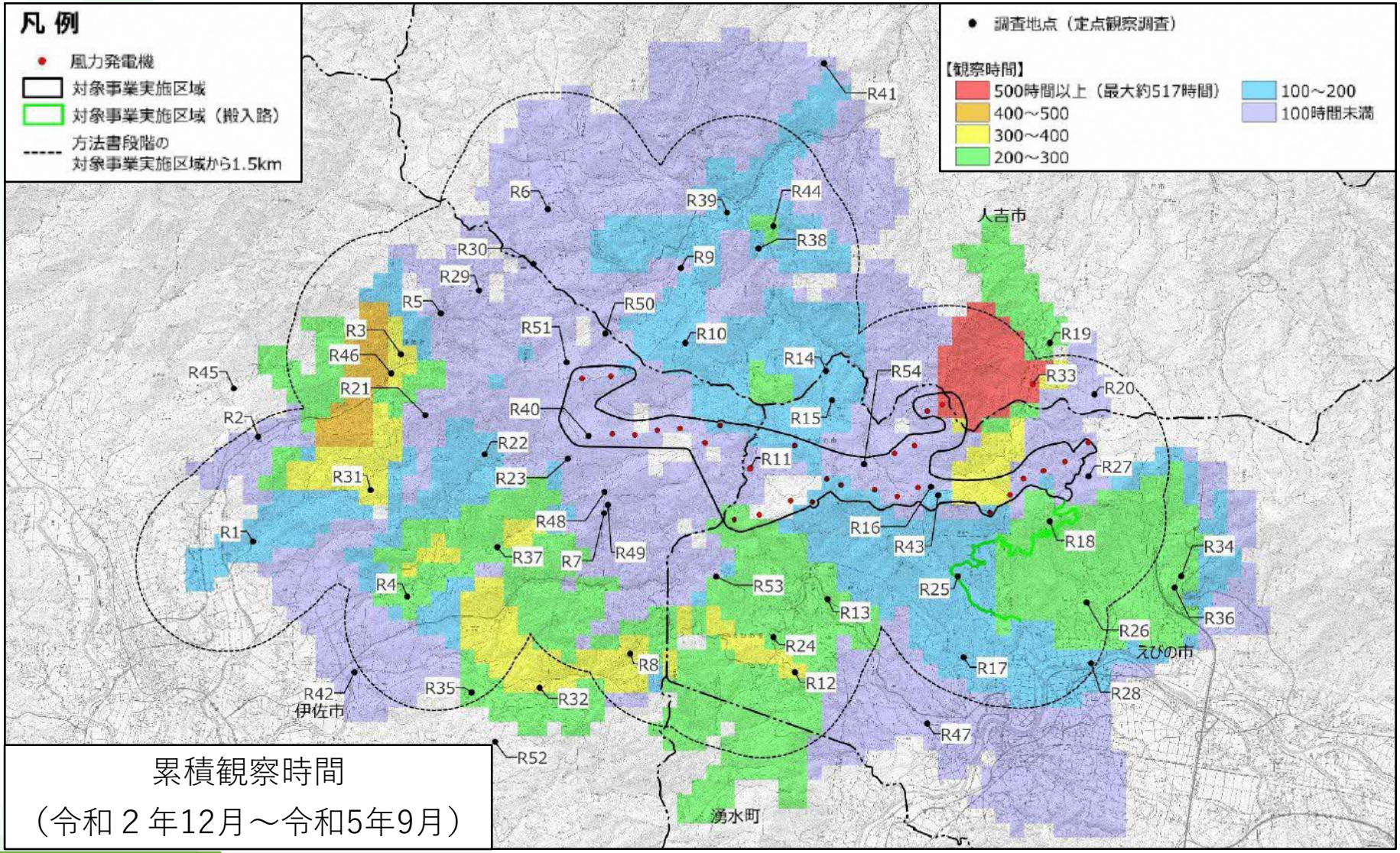
区分	環境保全措置
工事中	✓風力発電機の設置及び搬入路の敷設に伴う樹木の伐採や改変は、必要最小限にとどめる。また、作業ヤードとしての造成範囲は、必要最小限にとどめる。 ✓土砂の流出を防止する対策として、適切な場所に土砂流出防止柵を設置する。 ✓工事関係者の改変区域外への不要な立ち入りは行わない。 ✓定期的に会議等を行い、環境保全措置を工事関係者に周知徹底する。
事業計画／稼働開始後	✓既存道路等を可能な限り流用することで、改変面積を最小限にとどめる。 ✓樹木の伐採を最小限とし、造成により生じた切盛法面は地盤の状況に応じた適切な緑化を行い、植生の早期回復を図る。 ✓改変区域内に生育する重要な植物のうち、シュンラン、クモラン、ハリコウガイゼキショウ、オオモミジ、オオルリソウ及びトラノオジソについては、保全措置として、シュンラン、クモラン、ハリコウガイゼキショウ及びオオルリソウについては株移植を、トラノオジソについては播種を実施する。オオモミジについては、生育状況や移植先の状況を踏まえ、挿し木・とり木・株移植等から最適な保全措置を検討・実施する。なお、保全措置の実施方法及び実施先の選定等について専門家の助言を踏まえて実施する。

準備書p.10.1.5-351(1831)～353(1833)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

生態系

(1)調査結果【猛禽類調査】①



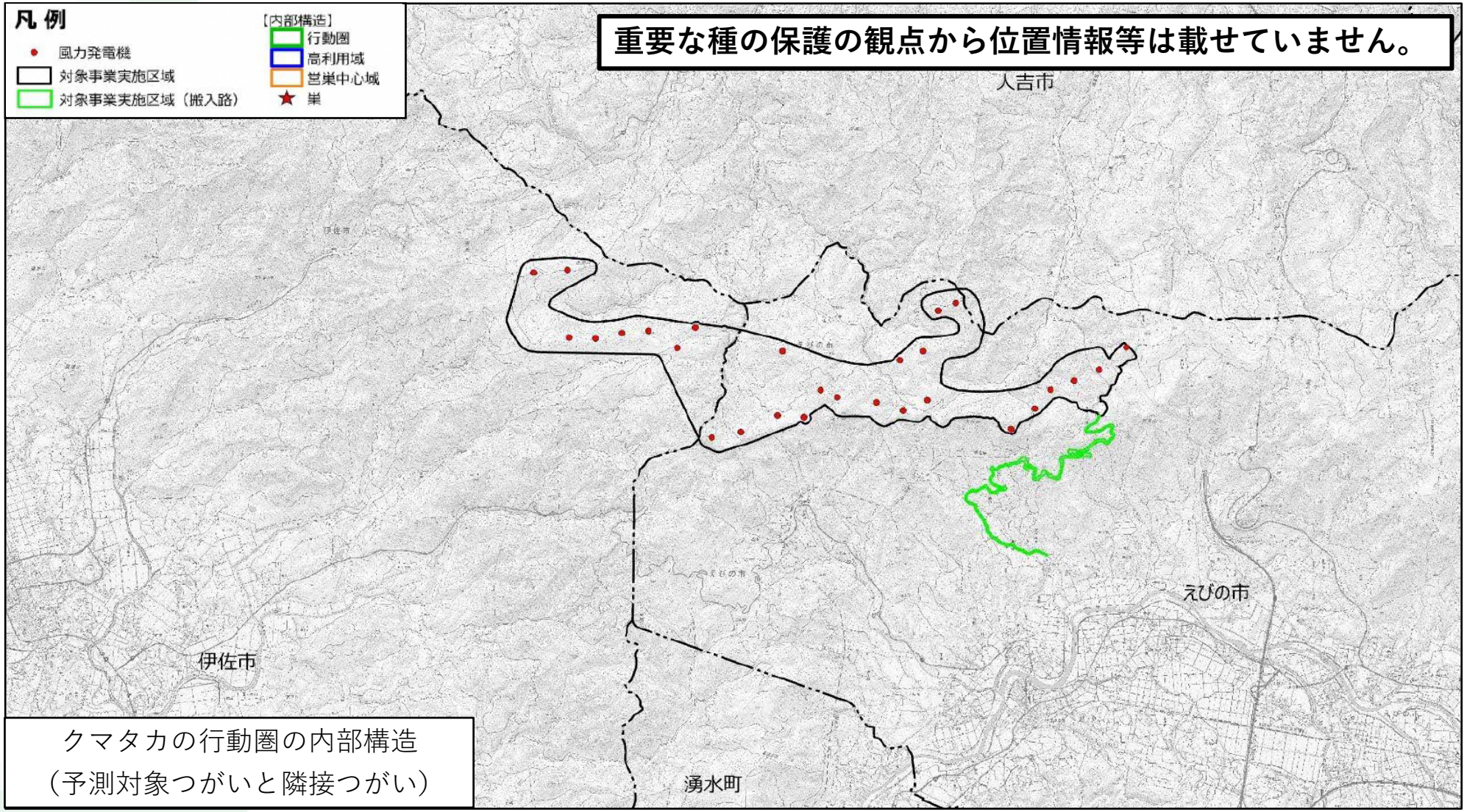
累積観察時間
（令和２年12月～令和5年9月）

準備書p.10.1.6-31(1865)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

生態系

(1)調査結果【猛禽類調査】②



クマタカの行動圏の内部構造
（予測対象つがいと隣接つがい）

準備書p.10.1.6-51(1885)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

生態系

(2)予測結果【猛禽類調査】①

年間予測衝突数・令和3年：クマタカ

メッシュ No.	メッシュ 風力発電機No.	高度Mを含む総飛翔距離	環境省モデル	球体モデル
1	No.1	0 m	0 個体/年	0 個体/年
2	No.2	0 m	0 個体/年	0 個体/年
3	No.3	0 m	0 個体/年	0 個体/年
4	No.4	0 m	0 個体/年	0 個体/年
5	No.5	0 m	0 個体/年	0 個体/年
6	No.6	258 m	0.001 個体/年	0.001 個体/年
7	No.7	358 m	0.002 個体/年	0.001 個体/年
8	No.8	0 m	0 個体/年	0 個体/年
9	No.9	0 m	0 個体/年	0 個体/年
10	No.10	0 m	0 個体/年	0 個体/年
11	No.11	0 m	0 個体/年	0 個体/年
12	No.12	273 m	0.001 個体/年	0.001 個体/年
13	No.13	47 m	0 個体/年	0 個体/年
14	No.14	124 m	0.001 個体/年	0 個体/年
15	No.15	375 m	0.002 個体/年	0.001 個体/年
16	No.16	31 m	0 個体/年	0 個体/年
17	No.17	0 m	0 個体/年	0 個体/年
18	No.18	0 m	0 個体/年	0 個体/年
19	No.19	48 m	0 個体/年	0 個体/年
20	No.20	0 m	0 個体/年	0 個体/年
21	No.21	691 m	0.003 個体/年	0.003 個体/年
22	No.22	58 m	0 個体/年	0 個体/年
23	No.23	174 m	0.001 個体/年	0.001 個体/年
24	No.24	0 m	0 個体/年	0 個体/年
25	No.25	0 m	0 個体/年	0 個体/年
26	No.26	0 m	0 個体/年	0 個体/年
27	No.27	0 m	0 個体/年	0 個体/年
28	No.28	0 m	0 個体/年	0 個体/年
合計		232 m	0.011 個体/年	0.008 個体/年
ペアあたりの年間衝突個体数			0.003 個体/年	0.002 個体/年

年間予測衝突数・令和4年：クマタカ

メッシュ No.	メッシュ 風力発電機No.	高度Mを含む総飛翔距離	環境省モデル	球体モデル
1	No.1	0 m	0 個体/年	0 個体/年
2	No.2	0 m	0 個体/年	0 個体/年
3	No.3	0 m	0 個体/年	0 個体/年
4	No.4	0 m	0 個体/年	0 個体/年
5	No.5	0 m	0 個体/年	0 個体/年
6	No.6	0 m	0 個体/年	0 個体/年
7	No.7	2,048 m	0.016 個体/年	0.008 個体/年
8	No.8	51 m	0 個体/年	0 個体/年
9	No.9	0 m	0 個体/年	0 個体/年
10	No.10	0 m	0 個体/年	0 個体/年
11	No.11	0 m	0 個体/年	0 個体/年
12	No.12	0 m	0 個体/年	0 個体/年
13	No.13	0 m	0 個体/年	0 個体/年
14	No.14	0 m	0 個体/年	0 個体/年
15	No.15	0 m	0 個体/年	0 個体/年
16	No.16	0 m	0 個体/年	0 個体/年
17	No.17	0 m	0 個体/年	0 個体/年
18	No.18	0 m	0 個体/年	0 個体/年
19	No.19	191 m	0.001 個体/年	0.001 個体/年
20	No.20	0 m	0 個体/年	0 個体/年
21	No.21	0 m	0 個体/年	0 個体/年
22	No.22	0 m	0 個体/年	0 個体/年
23	No.23	0 m	0 個体/年	0 個体/年
24	No.24	0 m	0 個体/年	0 個体/年
25	No.25	0 m	0 個体/年	0 個体/年
26	No.26	0 m	0 個体/年	0 個体/年
27	No.27	325 m	0.003 個体/年	0.001 個体/年
28	No.28	0 m	0 個体/年	0 個体/年
合計		325 m	0.020 個体/年	0.010 個体/年
ペアあたりの年間衝突個体数			0.005 個体/年	0.003 個体/年

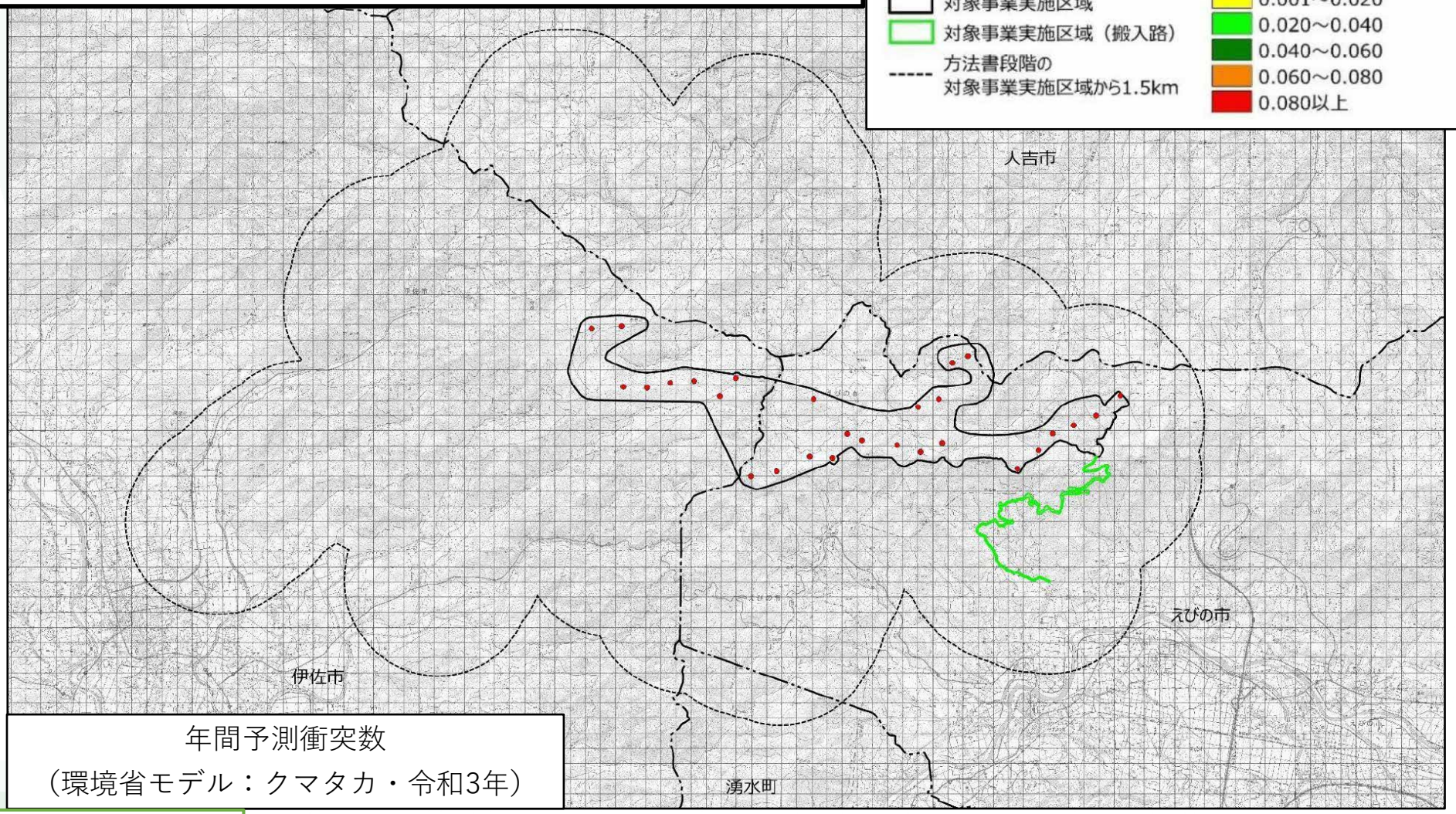
準備書p.10.1.4-508(1254)

注：クマタカの1ペアあたりの年間予測衝突数については、対象範囲にクマタカが4つがい生息していることを想定し算出した。

生態系

(2)予測結果【猛禽類調査】②

重要な種の保護の観点から位置情報等は載せていません。



年間予測衝突数
（環境省モデル：クマタカ・令和3年）

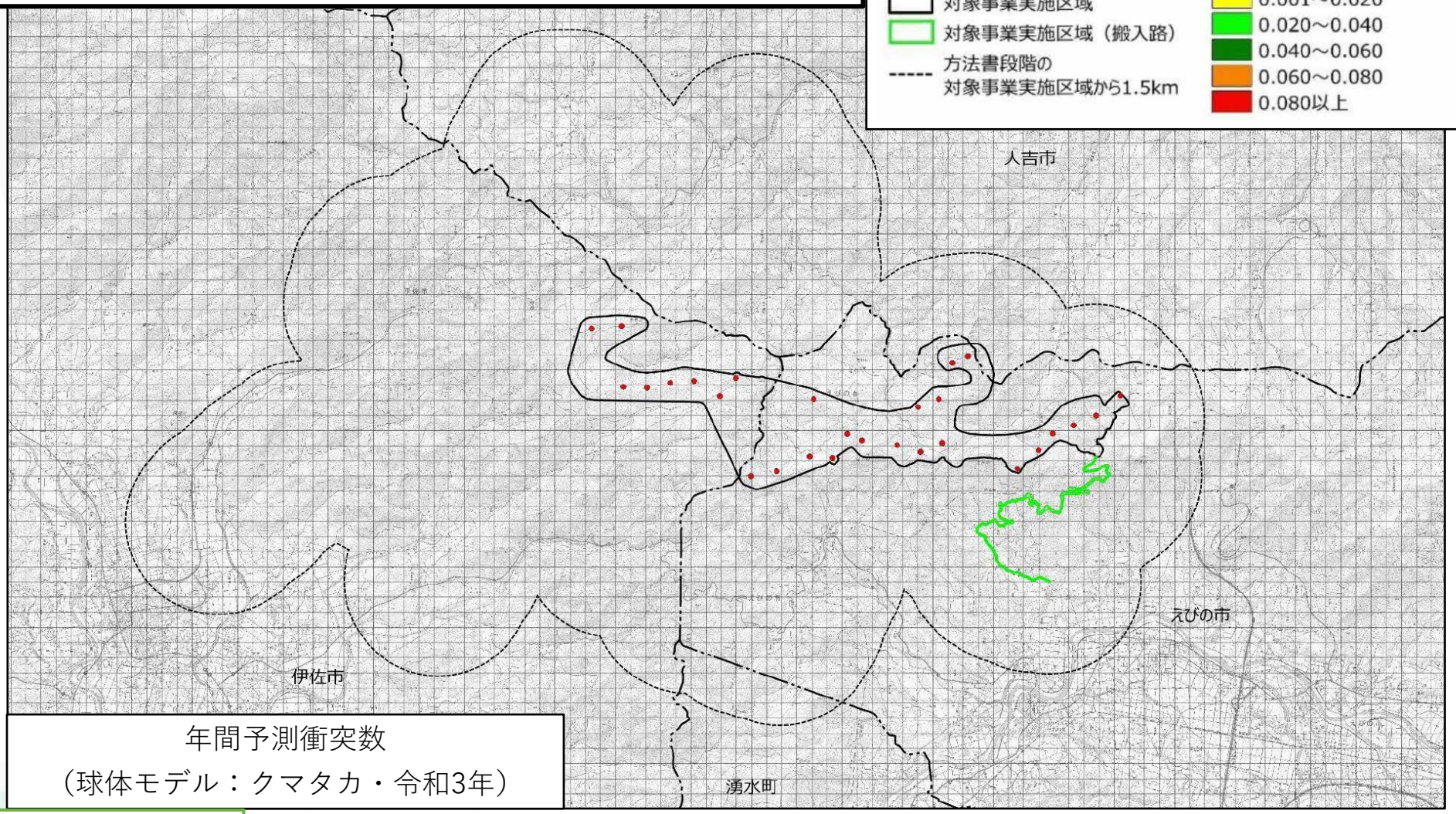
準備書p.10.1.4-509(1255)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

生態系

(2)予測結果【猛禽類調査】③

重要な種の保護の観点から位置情報等は載せていません。



年間予測衝突数
（球体モデル：クマタカ・令和3年）

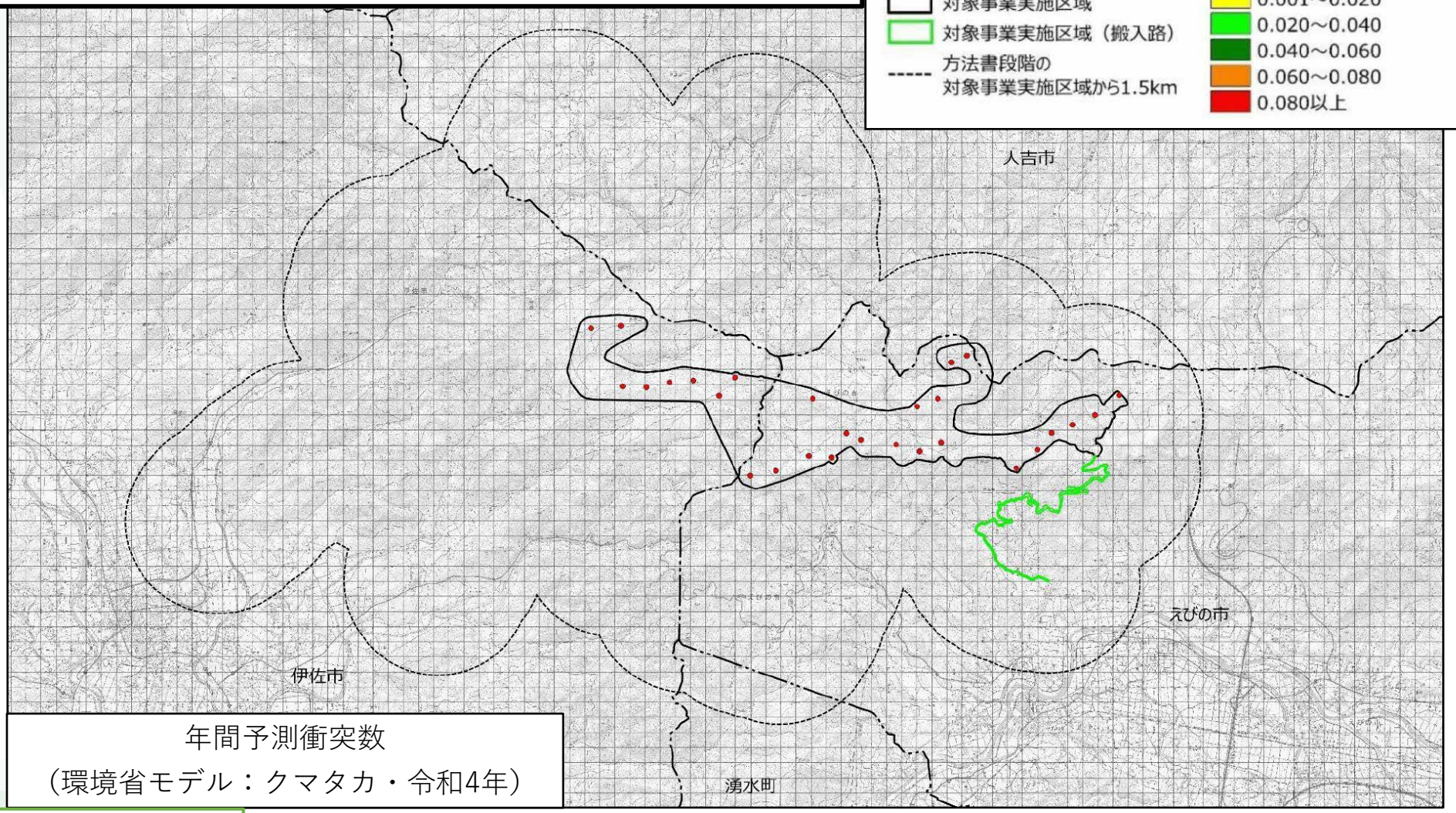
準備書p.10.1.4-510(1256)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

生態系

(2)予測結果【猛禽類調査】④

重要な種の保護の観点から位置情報等は載せていません。



年間予測衝突数
（環境省モデル：クマタカ・令和4年）

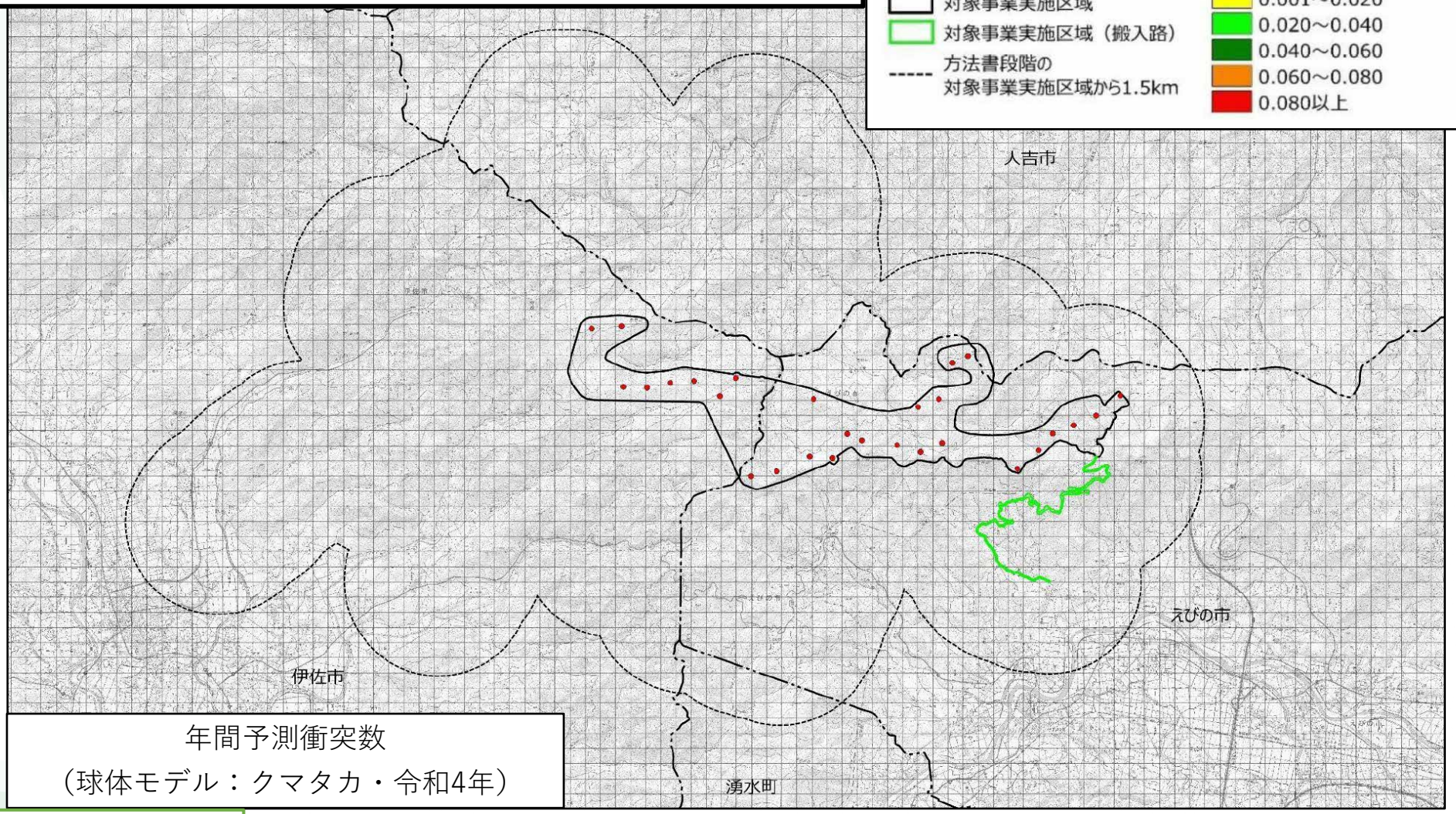
準備書p.10.1.4-511(1257)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

生態系

(2)予測結果【猛禽類調査】⑤

重要な種の保護の観点から位置情報等は載せていません。



年間予測衝突数
（球体モデル：クマタカ・令和4年）

準備書p.10.1.4-512(1258)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

生態系

(3)環境保全措置、評価の結果

環境保全措置として以下の対策を講じることから、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

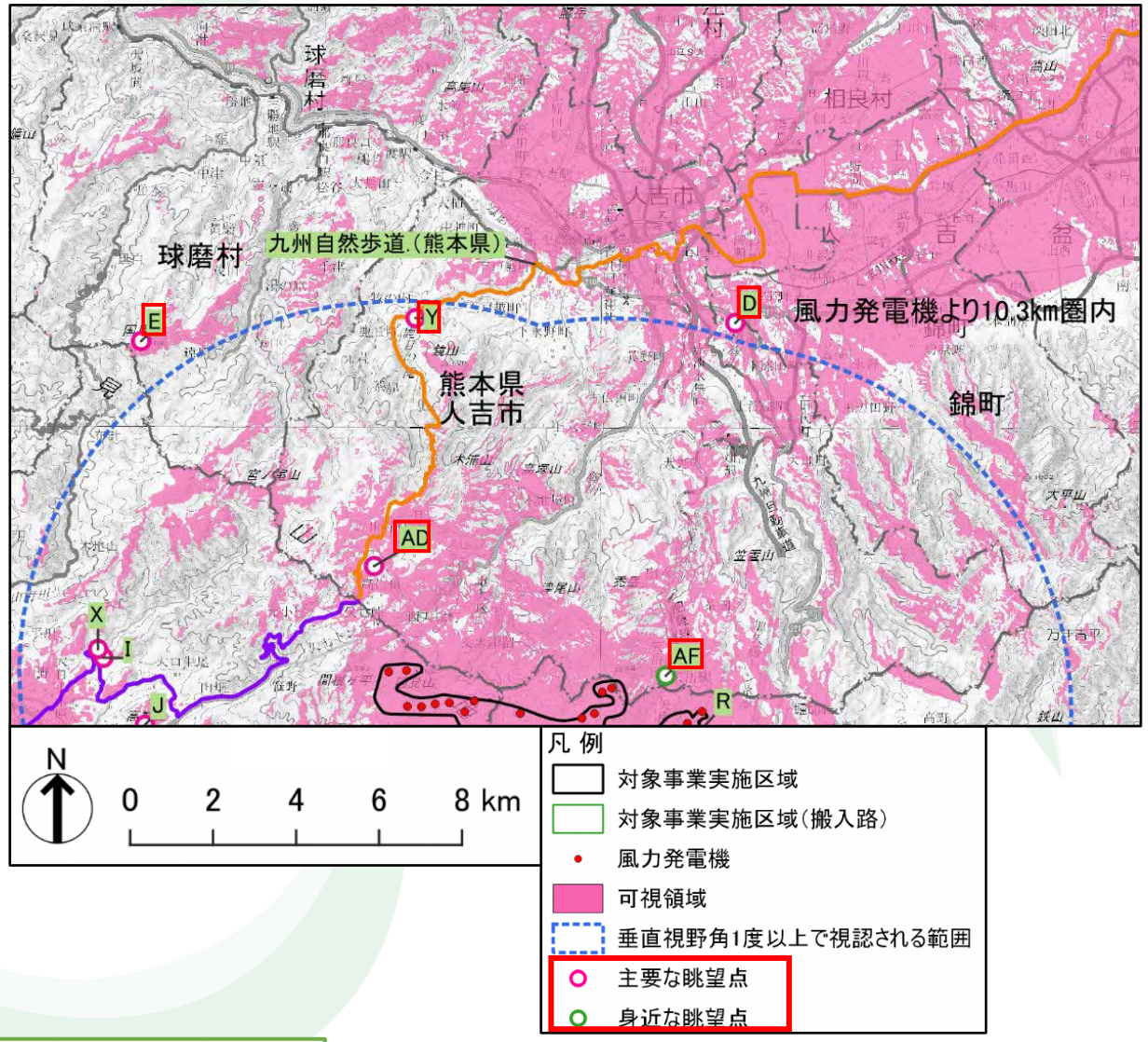
区分	環境保全措置
工事中	✓風力発電機の設置及び搬入路の敷設に伴う樹木の伐採や地形の改変は、必要最小限にとどめる。また、作業ヤードとしての造成範囲は、必要最小限にとどめる。 ✓工事関係者による改変区域外への必要以上の立ち入りを制限し、動物への影響を低減する。 ✓工事関係車両の走行速度等の注意喚起に努めることで、動物と接触する事故を未然に防ぐ。 ✓造成工事にあたっては、降雨時における土砂の流出による濁水の発生対策として、沈砂池等濁水対策工を先行して実施する。 ✓土砂の流出を防止する対策として、適切な場所に土砂流出防止柵を設置する。 ✓可能な限り排出ガス対策型・低騒音型・低振動型の建設機械を使用する。 ✓クマタカの繁殖期間中（1～8月頃）、特に営巣期のうち敏感度が極大となる時期（3～6月）において、可能な限り突発音が発生しないように調整する。 ✓定期的に会議等を行い、環境保全措置を工事関係者に周知徹底する。 ✓工事前に、ヤマネを確認した際の対応について、各県や市町村の文化財担当課等と協議を行う。工事中に改変予定箇所でヤマネを確認した場合、必要な許可申請等の手続きを行ったうえで、改変区域外の生息適地にヤマネを移動する。また、工事の作業員にはヤマネの生息可能性があること、およびヤマネを確認した場合の対応について十分周知を行う。
事業計画～稼働開始後	✓既存道路等を可能な限り流用することで、改変面積を最小限にとどめる。 ✓動物の生息環境を保全するため、改変区域外への必要以上の立ち入りを制限する。 ✓可能な限り送電線を地中埋没することで、鳥類等の移動経路を確保する。 ✓動物の生息環境の分断を低減するため、落下後の小動物の這い出しが難しいU字溝の採用を可能な限り少なくする。 ✓夜間に鳥類や昆虫類、コウモリ類が衝突・誘引する可能性を軽減するため、ライトアップは行わないこととする。また、航空法上必要な航空障害灯については、鳥類を誘引しにくいとされる閃光灯を採用する。

準備書p.10.1.6-104(1938)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

景観

(1)調査地点図



地点No.	名称
D	人吉クラフトパーク 石野公園/道の駅人吉
E	国見山
Y	九州自然歩道 (熊本県:鹿目の滝)
AD	美晴山（田野高原）
AF	矢岳駅

⇒熊本県内では上記5地点においてフォトモンタージュを作成

準備書p.10.1.7-4(1944)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

景観

(2)予測結果①

	D.人吉クラフトパーク石野公園/道の駅人吉
現況	
将来	

注：垂直見込角は、写真撮影地点と風力発電機設置位置の標高差及び直線距離上の地形を考慮して算出した。

垂直見込角の算定結果

区分	風力発電機No.	距離（km）	垂直見込角（度）
最大	WTG27	13.3	0.7
	WTG28	13.7	
最小	WTG01	10.9	0.3

準備書p.10.1.7-57(1997)～10.1.7-58(1998)

景観

(2)予測結果②

E.国見山

現況	将来
	

⇒全て不可視

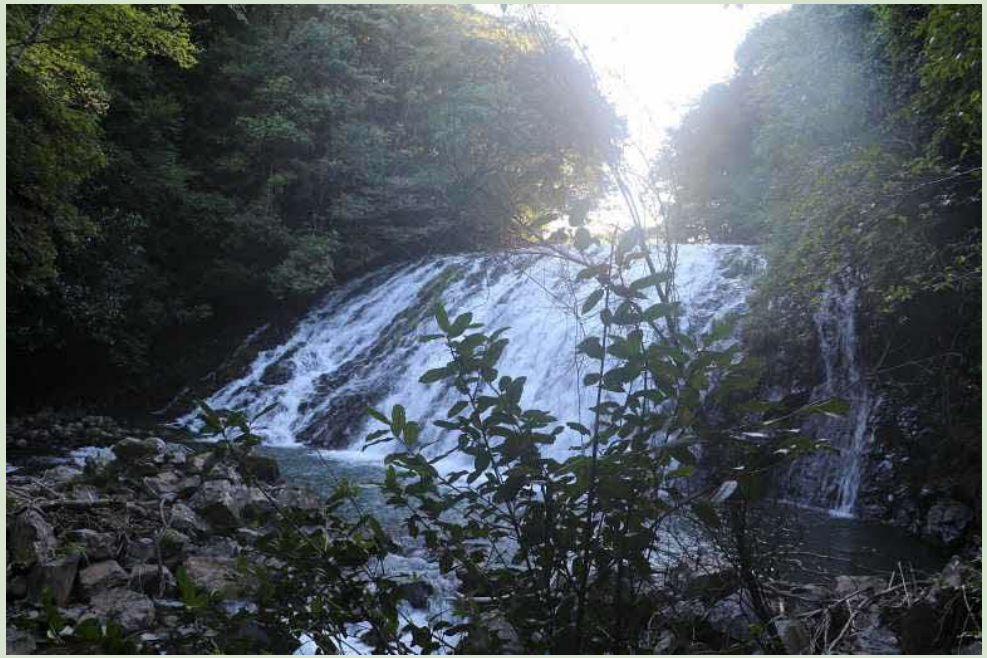
準備書p.10.1.7-59(1999)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

景観

(2)予測結果③

Y.九州自然歩道（熊本県:鹿目の滝）

現況	将来
	

⇒全て不可視

準備書p.10.1.7-73(2013)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

景観

(2)予測結果④

	AD.美晴山（田野高原）
現況	
将来	

注：垂直見込角は、写真撮影地点と風力発電機設置位置の標高差及び直線距離上の地形を考慮して算出した。

垂直見込角の算定結果

区分	風力発電機 No.	距離（km）	垂直見込角（度）
最大	WTG27	3.1	2.4
最小	WTG02	9.9	0.1

準備書p.10.1.7-74(2014)～10.1.7-76(2016)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

景観

(2)予測結果⑤

	AF.矢岳駅
現況	
将来	

注：垂直見込角は、写真撮影地点と風力発電機設置位置の標高差及び直線距離上の地形を考慮して算出した。

垂直見込角の算定結果

区分	風力発電機 No.	距離（km）	垂直見込角（度）
最大	WTG07	1.6	3.9
最小	WTG01	1.4	1.7

準備書p.10.1.7-81(2021)～10.1.7-82(2022)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

景観

(2)環境保全措置

- 風力発電機は、景観との調和を図るため、明度・彩度を抑えた塗装（グレー系）とする。
- 樹木の伐採を最小限とし、造成により生じた切盛法面は、地盤の状況に応じた適切な緑化を行い、植生の早期回復を図る。
- 変電設備と風力発電施設を接続する送電線については、可能な限り地中埋設とする。

(3)評価の結果

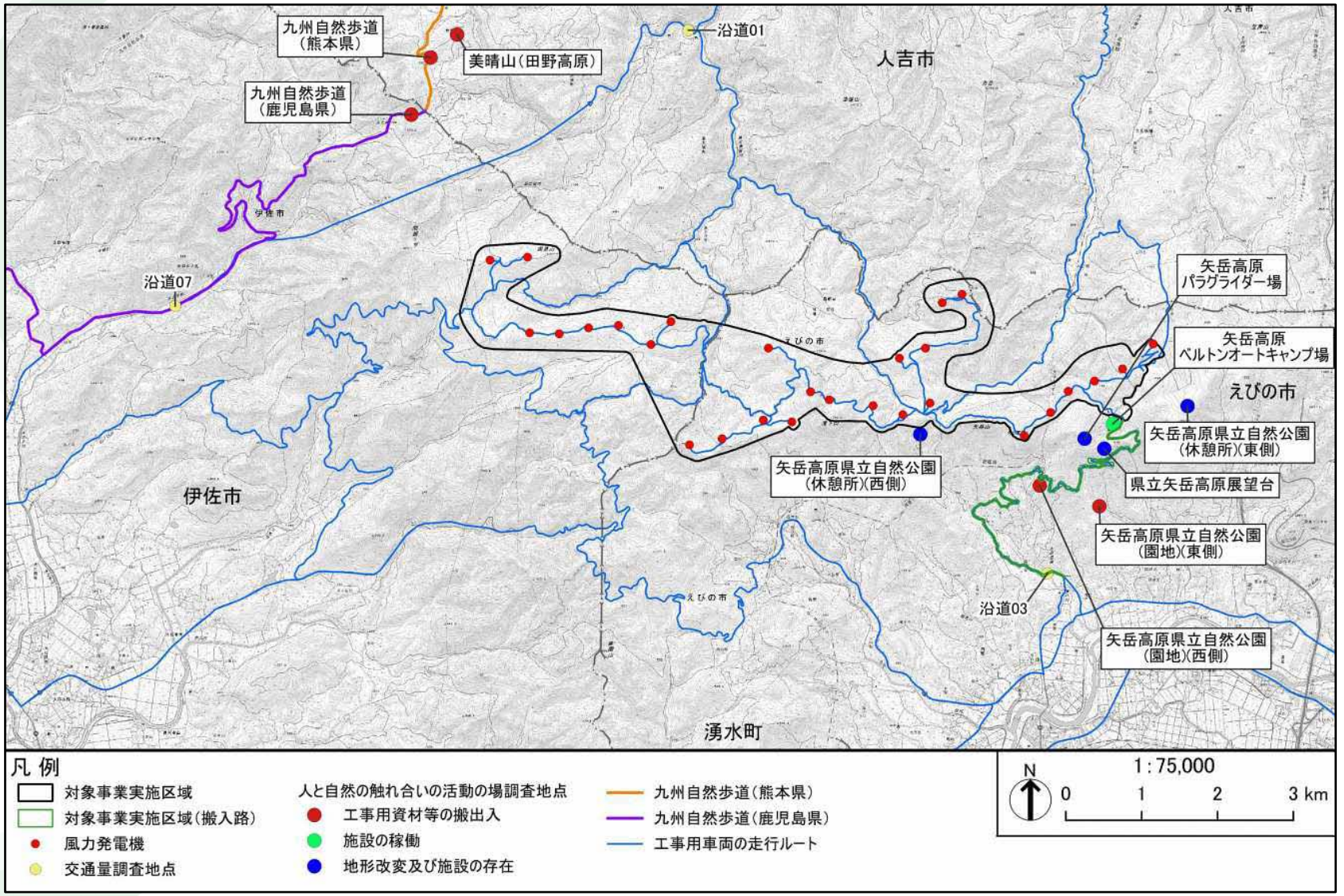
熊本県内の5地点のうち、「D.人吉クラフトパーク石野公園/道の駅人吉」、「AD.美晴山（田野高原）」、「AF.矢岳駅」の3地点では眺望の状況に変化がありますが、上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

準備書p.10.1.7-103(2043)～10.1.7-107(2047)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

人と自然との触れ合いの活動の場

(1)調査地点図



Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

人と自然との触れ合いの活動の場

(2)予測結果

環境要因	調査地点	予測結果
工事用資材等の搬出入	美晴山（田野高原）	工事関係車両の主要な走行経路と重複はしていないこと、交通量の増加率がそれほど大きくない（約1.26～1.29倍である）こと、地点へのアクセスルートは一般国道267号以外にも複数存在すること、環境保全措置を実施することなどから、利用特性に大きな変化はないと予測する。
	九州自然歩道（熊本県）	工事関係車両の主要な走行経路と重複はしていないこと、交通量の増加率がそれほど大きくない（約1.26～1.29倍である）こと、地点へのアクセスルートは一般国道267号以外にも複数存在すること、環境保全措置を実施することなどから、利用特性に大きな変化はないと予測する。

(3)環境保全措置、評価の結果

- 工事工程等の調整により、工事関係車両台数を平準化することにより、ピーク時の台数を減らす。
- 工事関係者の乗り合い通勤の徹底を図ることにより、工事関係車両台数を低減する。
- 工事関係車両が一つのルートに集中しないようにルート配分を検討し、工事関係車両台数の分散に努める。
- 工事関係車両の主要な走行ルートの周囲の主要な人と自然との触れ合いの活動の場において開催されるイベントについては、関係機関等に随時確認し、工事日にアクセスが集中する可能性のあるイベントが開催される場合や時期においては、開催日の工事関係車両の走行を可能な限り控える等、配慮する。
- 定期的に会議等を行い、環境保全措置を工事関係者に周知徹底する。

上記の環境保全措置を講じることで、**実行可能な範囲内で影響の低減が図られているものと評価**します。

準備書p.10.1.8-26(2074)～10.1.8-31(2076)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

03

事後調査計画



事後調査計画①

項目	事後調査を行う理由	調査方法
風車の影	予測結果より、指針値を超える住居があるため、施設稼働開始後の風車の影の状況を確認する	【調査項目】風車の影の状況調査 【調査地域】対象事業実施区域及びその周囲 【調査地点】指針値を超えると予測する住居 【調査期間】稼働後に1回 【調査方法】 ヒアリングを実施する。また、必要に応じて補足的に影の状況を調査する。 【環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合又は予測しえない影響が明らかになった場合】 風車の影がかかる時間が指針値を超過し、風車の影についての苦情が発生する等、環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合、発生する時間帯及び気象条件を考慮の上、必要に応じて、関係者と協議の上で遮光カーテンやブラインドの設置等、追加的な環境保全措置を講じることとする。

準備書p.10.3-2(2114)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

事後調査計画②

項目	事後調査を行う理由	調査方法
動物(コウモリ類・クマタカ)・ 生態系(クマタカ)	鳥類の年間予測衝突数は不確実性も伴うため、バードストライクの有無を確認する コウモリ類のブレード等への接近・接触に係る予測は不確実性を伴うため、バットストライクの有無を確認する	【調査項目】死骸探索調査(コウモリ類及び鳥類) 【調査地域】風力発電機建設地 【調査地点】建設した風力発電機(全28基) 【調査期間】稼働後1年間 【調査頻度】1回/週以上 【調査時間帯】日中(但し、早朝～午前中の実施に努める) 【調査方法】 専門的な知識を有している調査員又は施設管理者による踏査を実施し、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（環境省、平成23年、平成27年修正版）を参考としバットストライク及びバードストライクの有無を確認する。 【調査範囲】 1基あたり、地上からブレード先端部までの長さを調査半径とする円内とする。 【死骸発見時の対応】 重要な種の衝突等による死亡・外傷個体が確認された場合は、確認位置や損傷状況等を記録するとともに、関係機関との連絡・調整、死亡・外傷個体の搬送、関係機関による原因分析及び外傷個体の救命への協力を行う。 【環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合又は予測しえない影響が明らかになった場合】 事前の予測を大きく超えバードストライク・バットストライクが確認される等、環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合、専門家の意見を聴取し、適切な対策を講じる。

準備書p.10.3-2(2114)～3(2115)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.

事後調査計画③

項目	事後調査を行う理由	調査方法
植物	移植には不確実性を伴うため、移植個体の活着状況及び改変区域周辺の植物の状況を確認する	【調査項目】 移植等の保全措置対象個体のモニタリング調査及び改変区域付近の植物の生育状況調査 【調査地域】環境保全措置実施箇所及び改変区域付近 【調査地点】 環境保全措置実施地点及び改変区域付近における重要な種の生育地点 【調査期間】 保全措置実施後1年間実施後、状況を見て継続を判断する 【調査方法】目視確認 【環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合】 移植等を実施した個体の生育不良がみられる等、環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合、専門家の意見を聴取し、適切な対策を講じる。

準備書p.10.3-3(2115)

Green Power Investment Corporation 2026 © All Rights Reserved.